

構造物のロバスト最適化

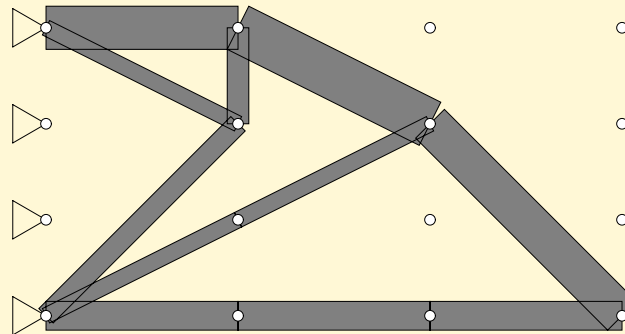
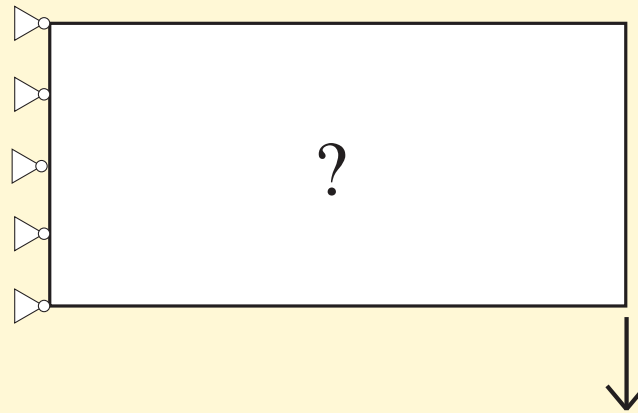
寒野 善博

September 14, 2011

日本オペレーションズ・リサーチ学会 第 66 回シンポジウム

構造物の設計

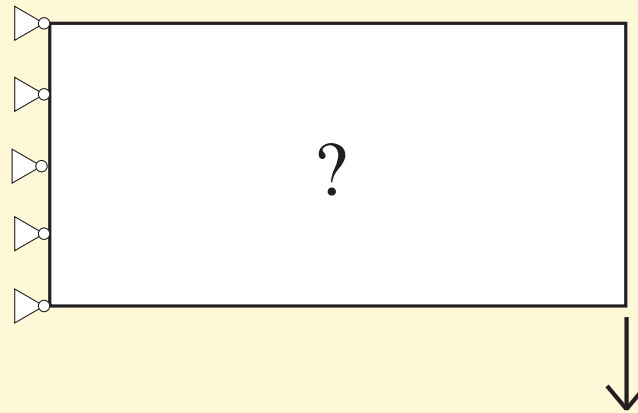
- 設計とは...



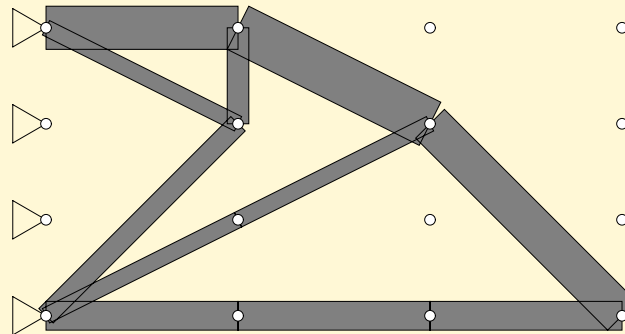
設計解

- 設計条件を満たすかをチェックする

- 設計とは...



↓ 最適化

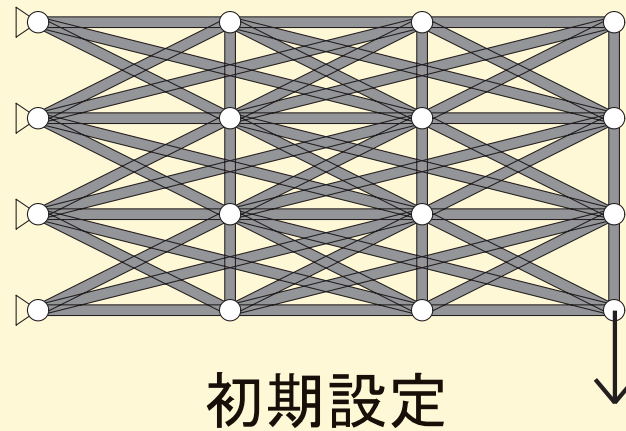


最適設計

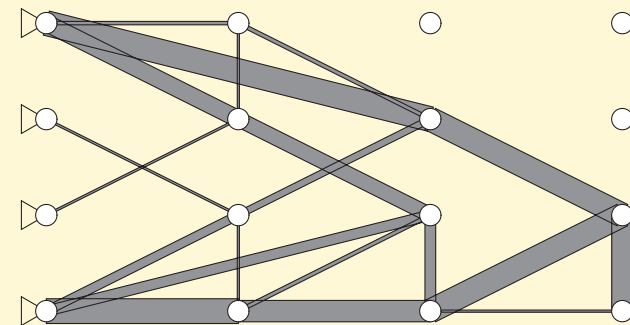
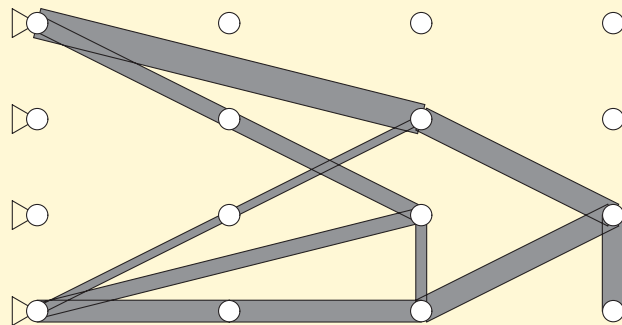
- 設計条件は最適化問題の制約とする

構造物の最適化とロバスト最適化

- たとえば...

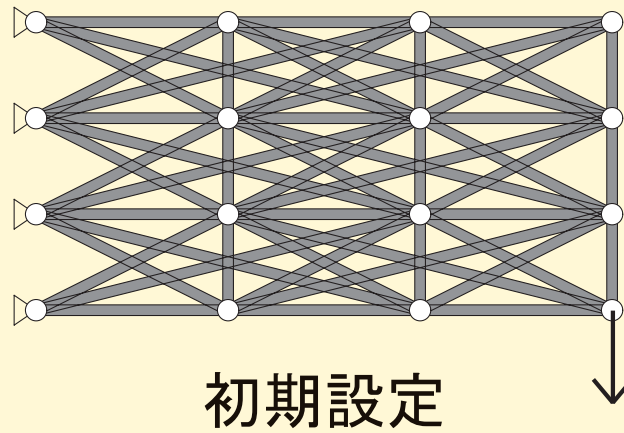


↓ 最適化

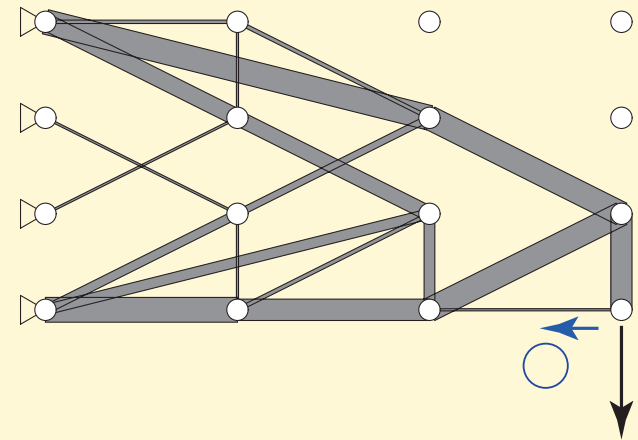
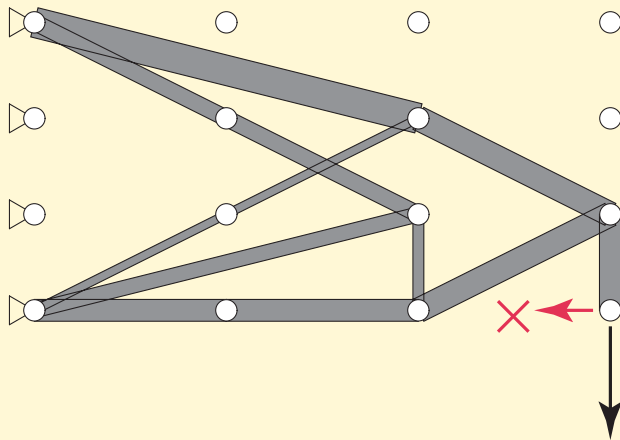


構造物の最適化とロバスト最適化

- たとえば...

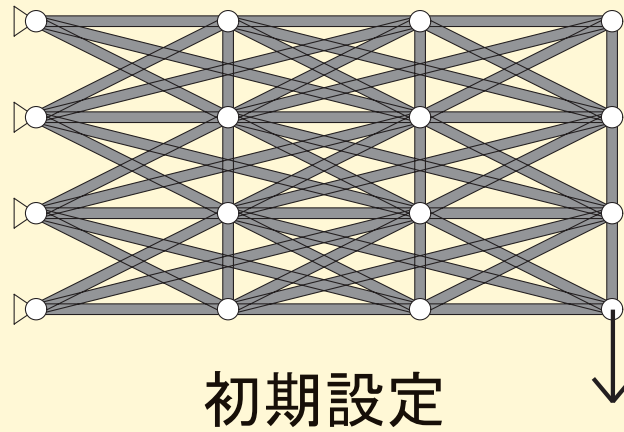


↓ 最適化

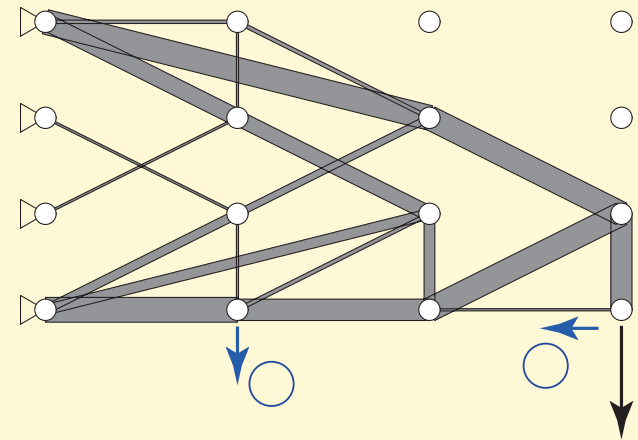
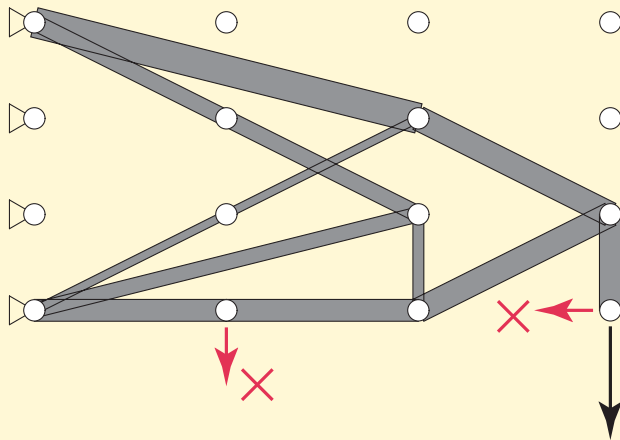


構造物の最適化とロバスト最適化

- たとえば...

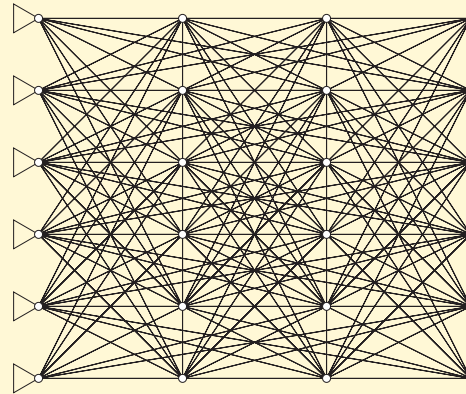


↓ 最適化

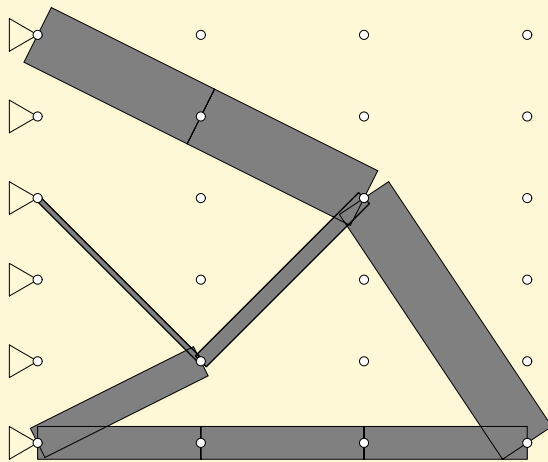


構造物の最適化とロバスト最適化

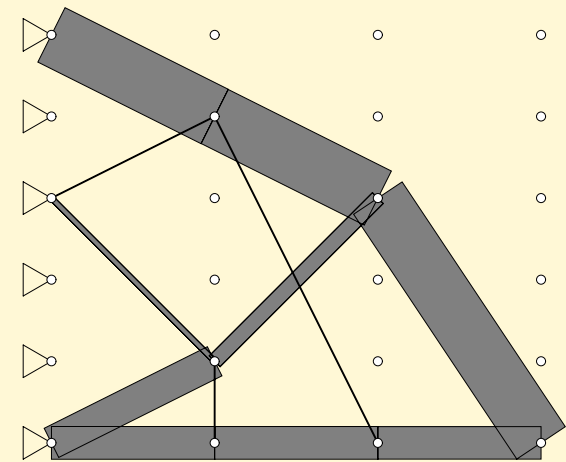
- たとえば...



初期設定



通常の構造最適化



ロバスト構造最適化

ロバスト最適設計

- 通常の構造最適化

$$\min_x \{ \text{vol}(\boldsymbol{x}) \mid \boldsymbol{g}(\boldsymbol{x}; \boldsymbol{z}) \leq \mathbf{0} \}$$

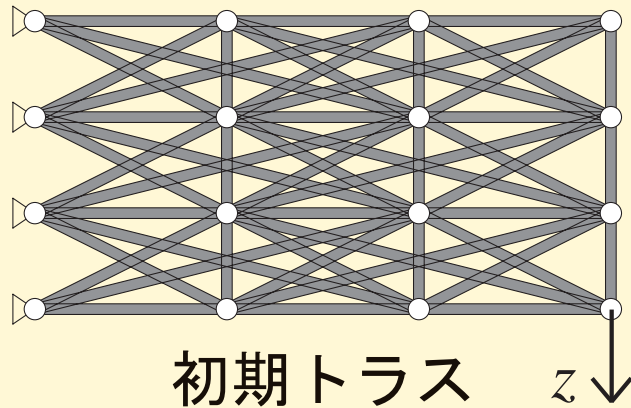
- たとえば 変数 \boldsymbol{x} は断面積
- たとえば データ \boldsymbol{z} は外力

ロバスト最適設計

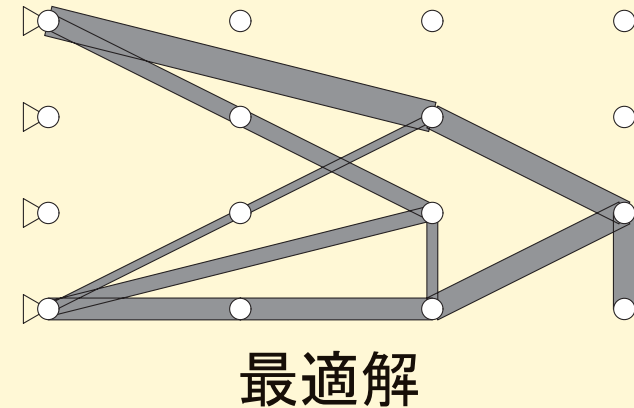
- 通常の構造最適化

$$\min_x \{ \text{vol}(x) \mid g(x; z) \leq 0 \}$$

- たとえば 変数 x は断面積
- たとえば データ z は外力



→
最適化



ロバスト最適設計

- 通常の構造最適化

$$\min_{\boldsymbol{x}} \{ \text{vol}(\boldsymbol{x}) \mid \boldsymbol{g}(\boldsymbol{x}; \boldsymbol{z}) \leq \mathbf{0} \}$$

- たとえば 変数 \boldsymbol{x} は断面積
- たとえば データ \boldsymbol{z} は外力

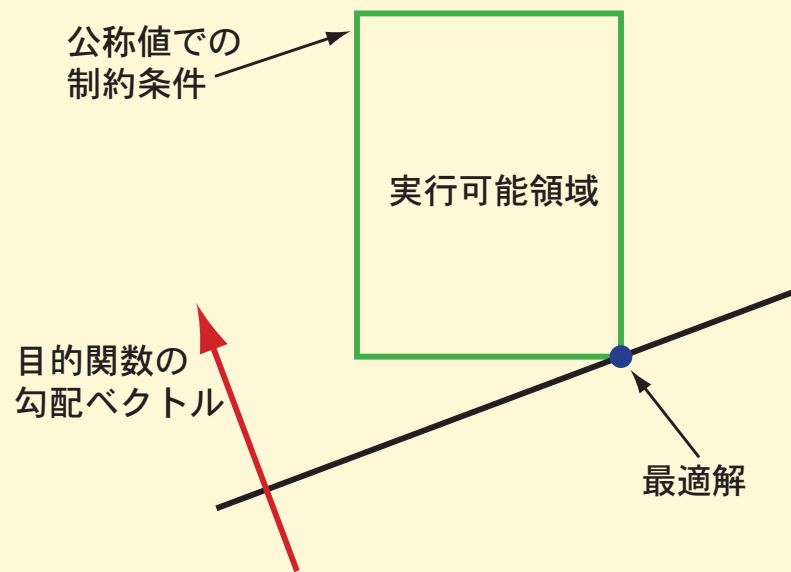
- ロバスト最適化

$$\min_{\boldsymbol{x}} \{ \text{vol}(\boldsymbol{x}) \mid \boldsymbol{g}(\boldsymbol{x}; \boldsymbol{z}) \leq \mathbf{0} \ (\forall \boldsymbol{z} \in Z) \}$$

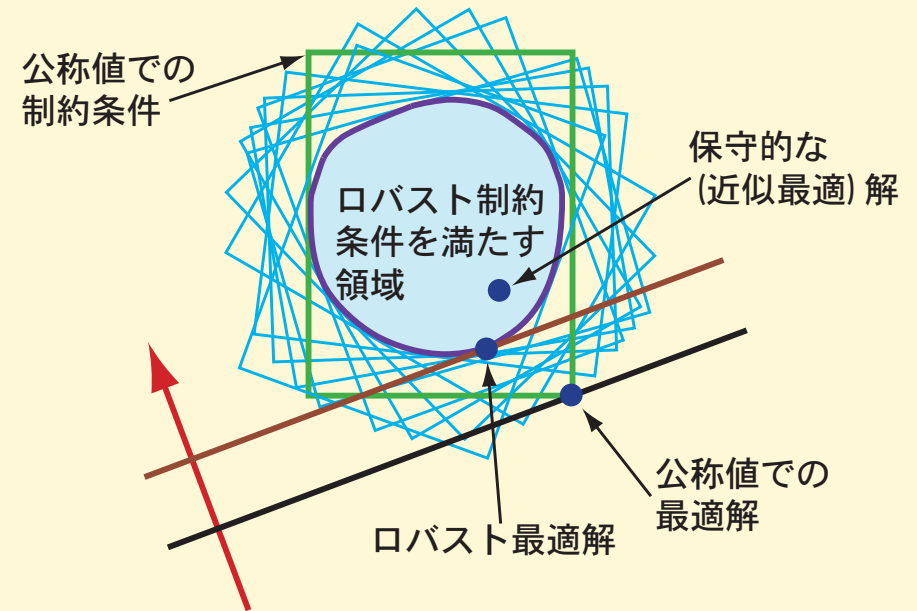
- たとえば 不確定性集合 Z は $Z = \{ \tilde{\boldsymbol{z}} + \boldsymbol{\zeta} \mid \|\boldsymbol{\zeta}\| \leq \alpha \}$
- ロバスト制約を書き直すと $\max \{ \boldsymbol{g}(\boldsymbol{x}; \boldsymbol{z}) \mid \boldsymbol{z} \in Z \} \leq \mathbf{0}$

ロバスト最適化

- ロバスト最適化の概念



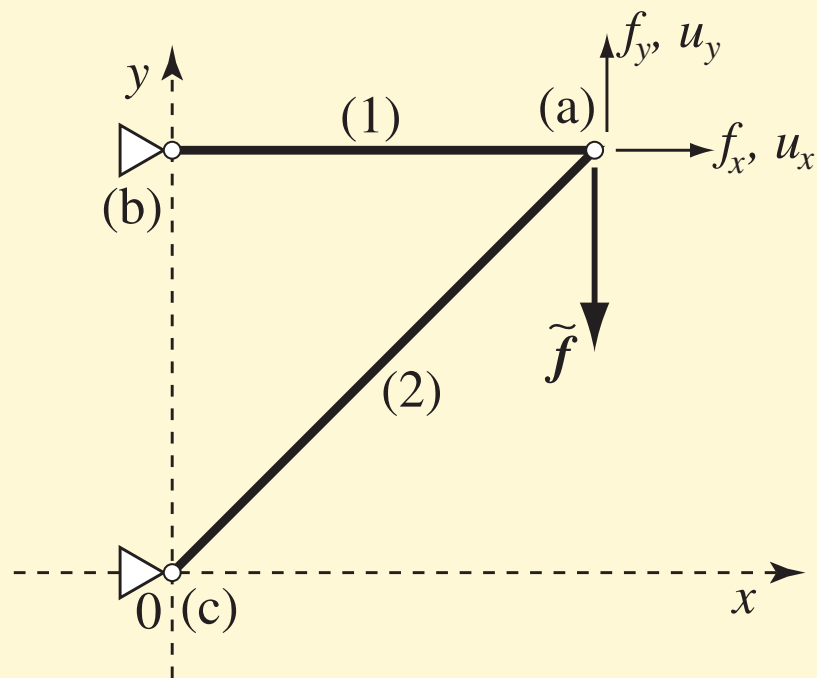
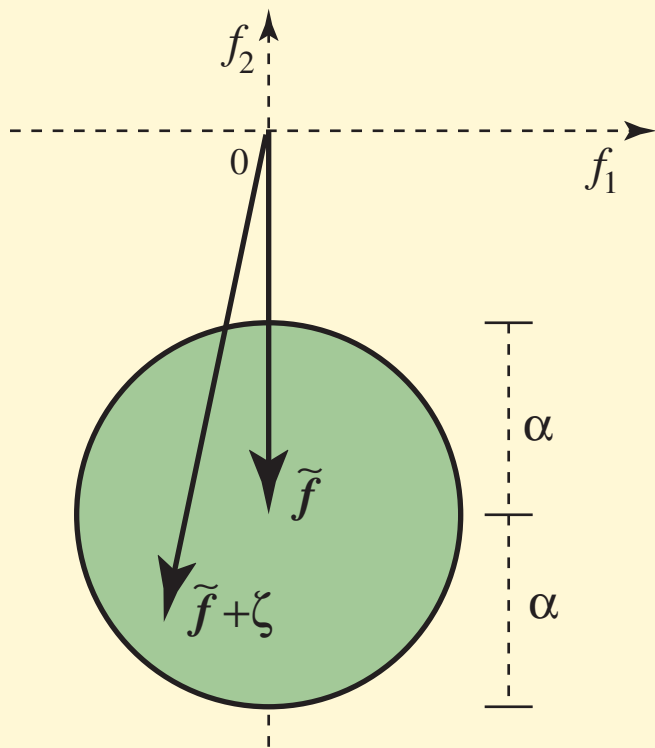
通常最適化問題



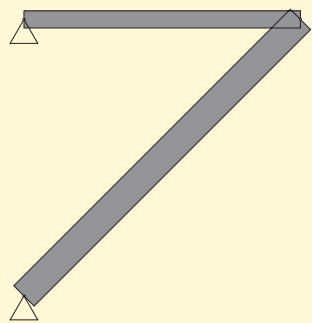
ロバスト最適化問題

ロバスト最適化の例：2部材トラス

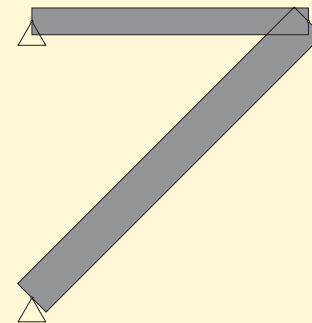
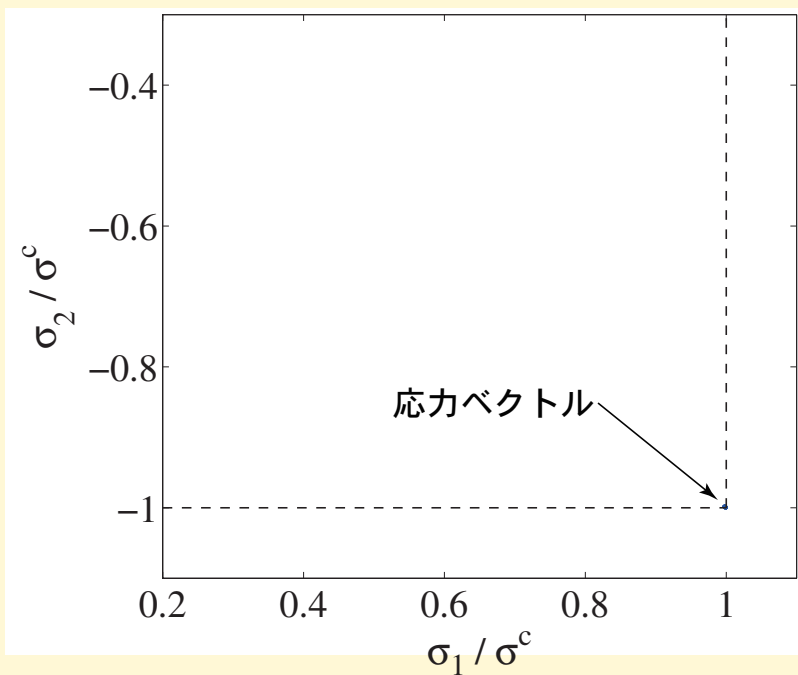
- 外力：中心が \tilde{f} ，幅 α 以下の任意の点をとる
- 応力制約



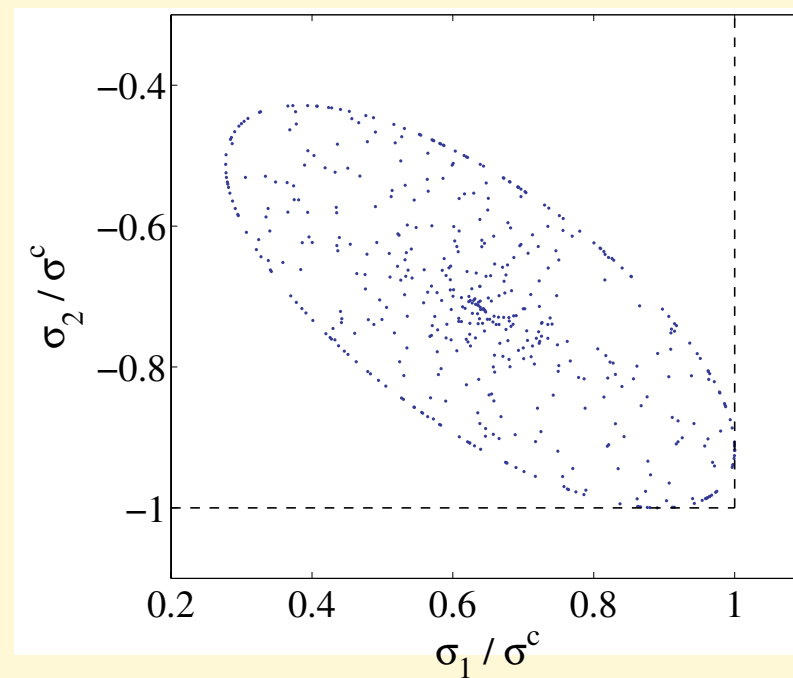
ロバスト最適化の例：2部材トラス



通常最適化



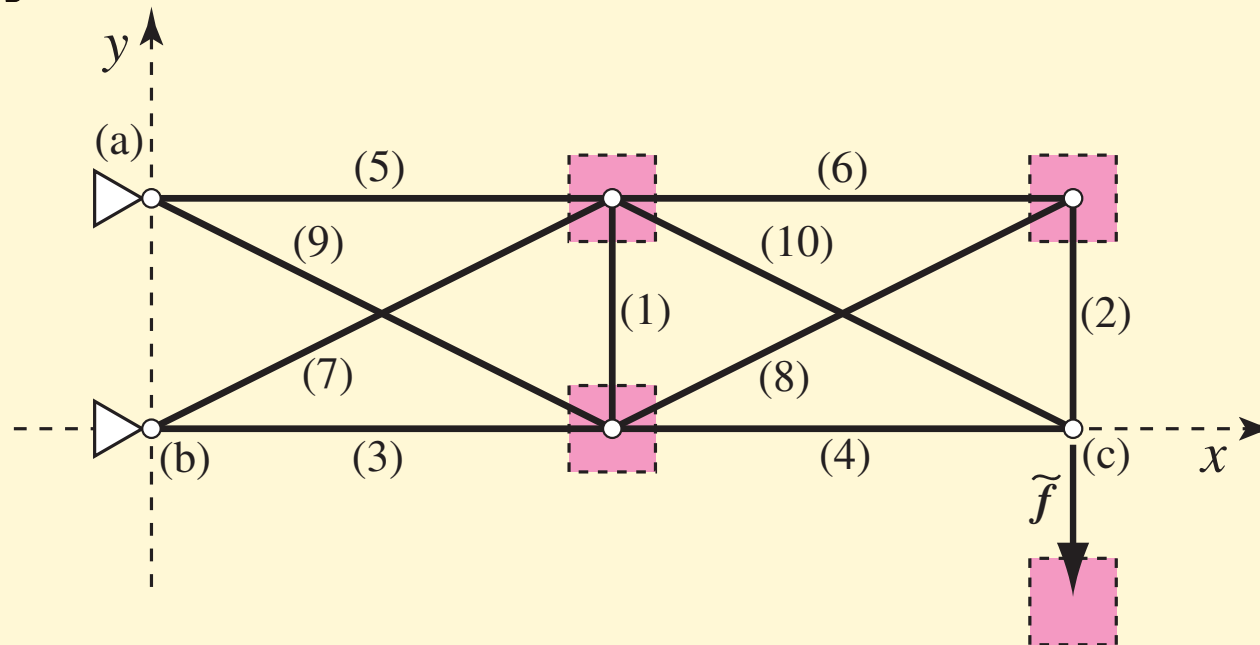
ロバスト最適化



両方の部材の制約が有効

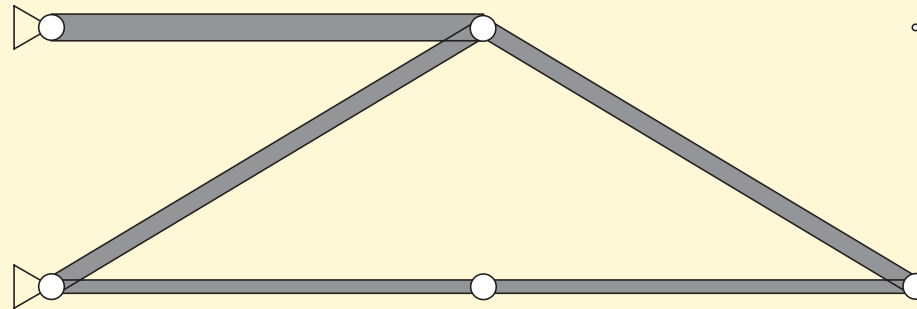
ロバスト最適化の例：10部材トラス

- 外力
 - 図の□の範囲の任意の値をとる
 - すべての節点に存在し得る
- 応力制約

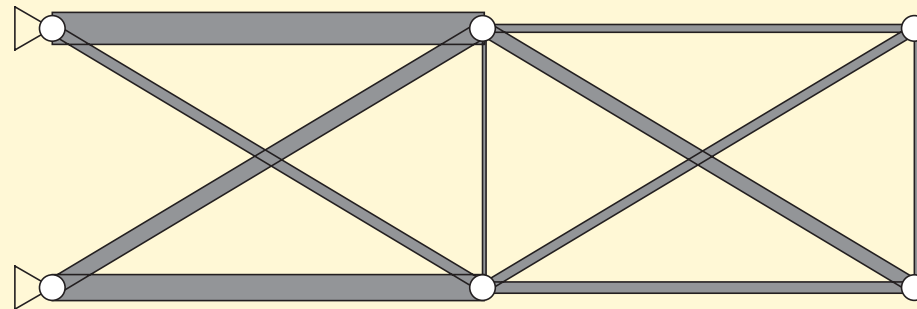


ロバスト最適化の例：10部材トラス

- 通常最適化

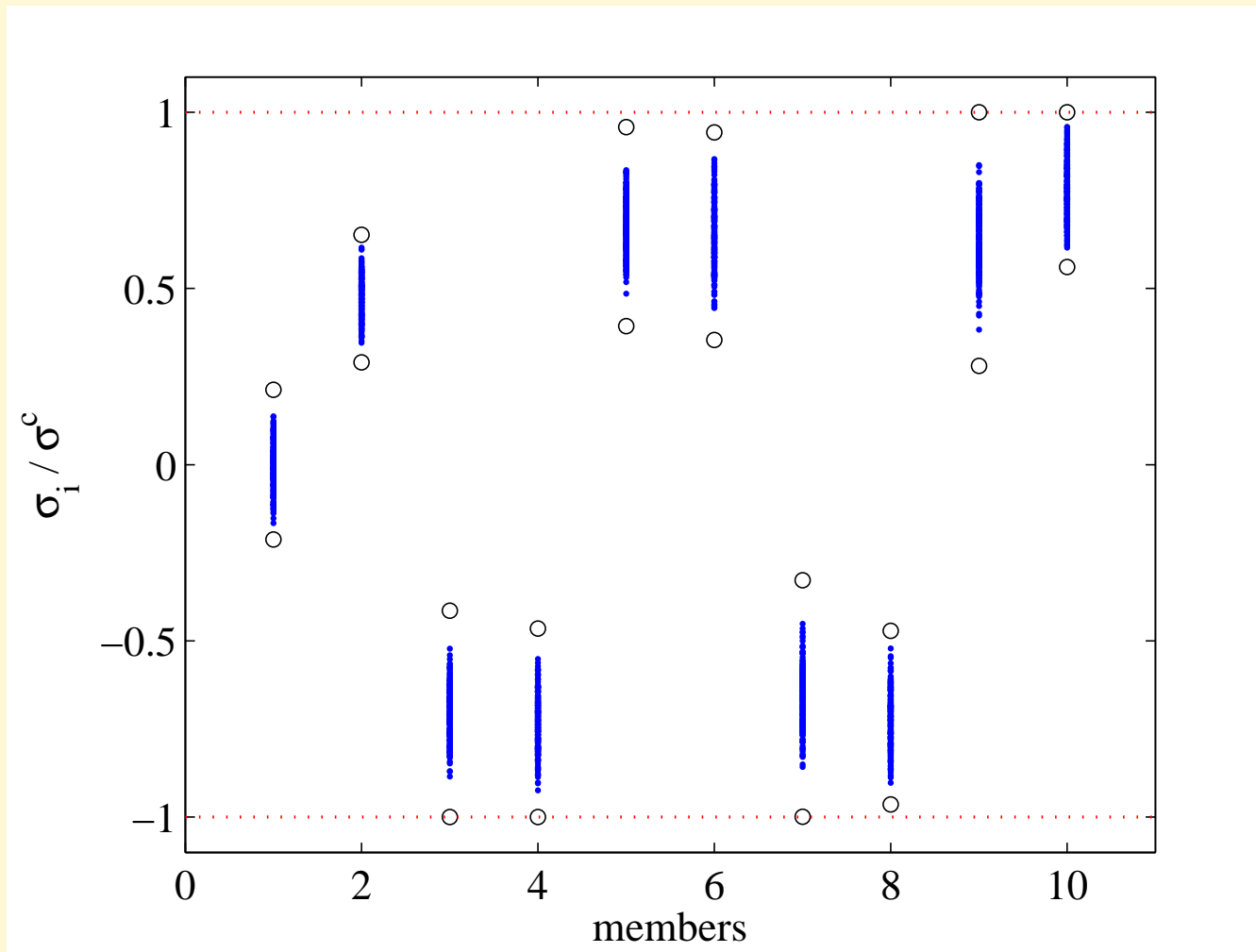


- ロバスト最適化



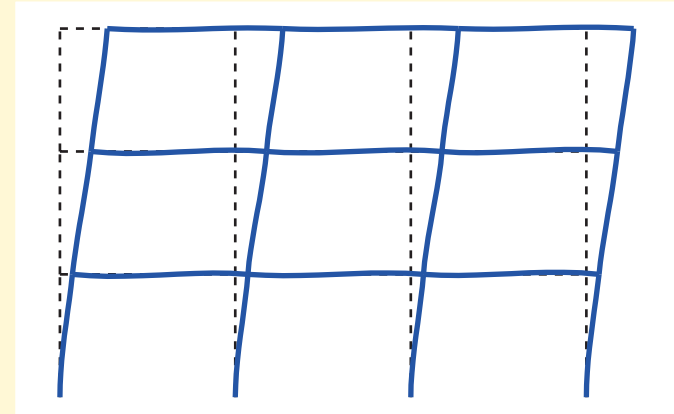
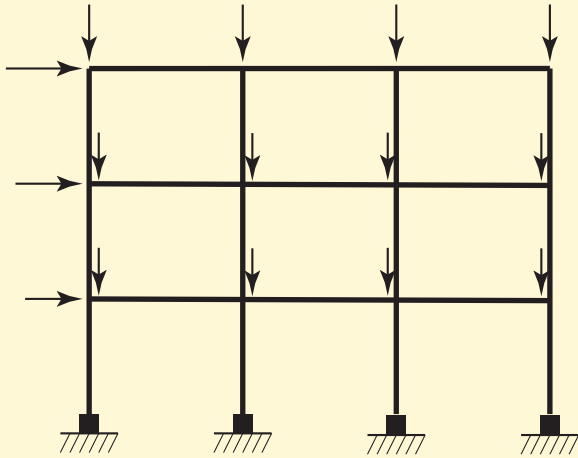
ロバスト最適化の例：10部材トラス

- ロバスト最適解の応力分布



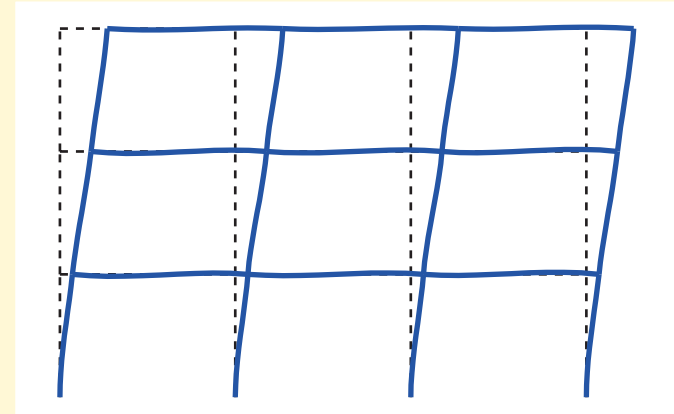
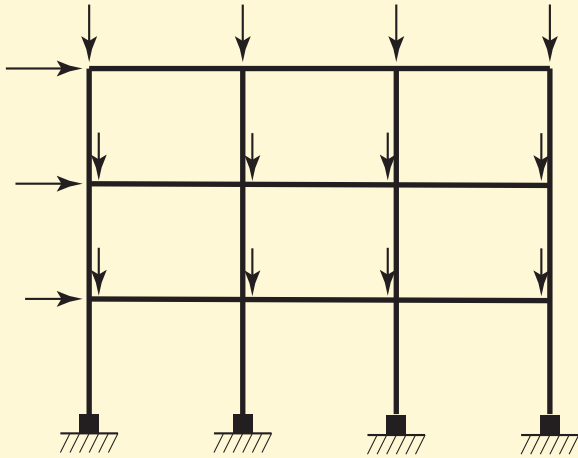
ロバスト性の重要性

- 構造物の解析
 - 外力 f を与え，変位 u を求める



ロバスト性の重要性

- 構造物の解析
 - 外力 f を与え, 変位 u を求める



$$Ku = f$$

(釣合式)

K : 剛性行列 (正定値対称)

剛性, 部材の接続関係, 節点位置 で決まる

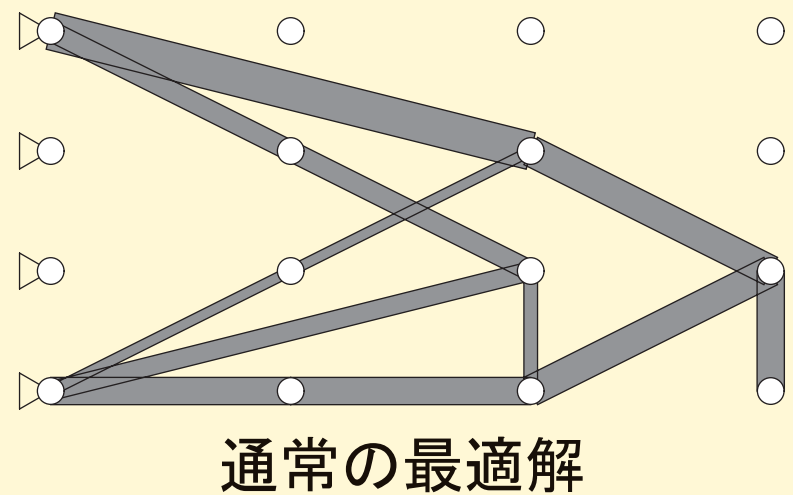
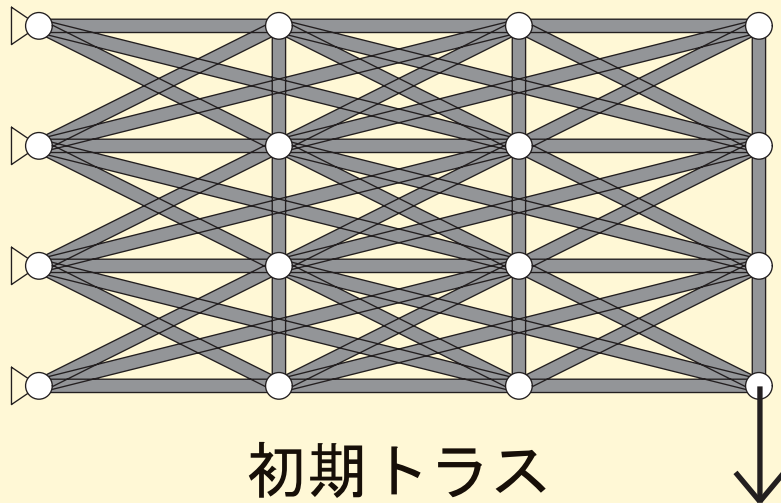
- 設計 : 適当な f を定めて K を決める

ロバスト性の重要性

- 不確定性はどこから生じるか
 - 外乱の予測の限界
 - 地震, 雪, 風
 - 施工誤差
 - 材料定数, 位置, プレストレス
 - 推定誤差
 - 地盤の力学的パラメータ
 - 耐震補強における既存建物のパラメータ
 - 構造物の部分的な損傷
 - 劣化, 疲労, 地震や火災を経験

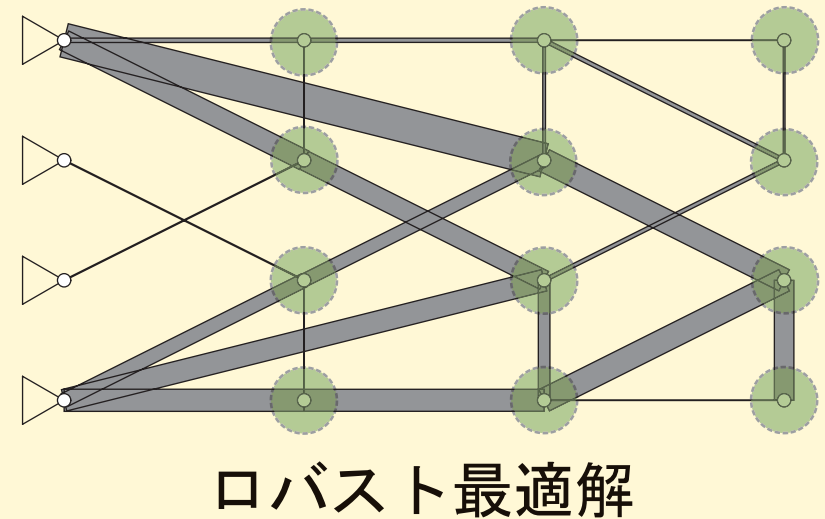
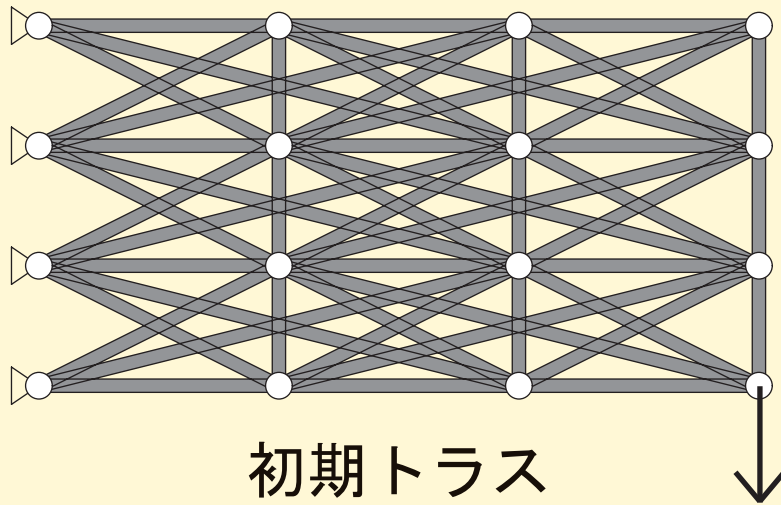
動機：ロバスト最適化

- トラスのコンプライアンス最小化
- 単一荷重では，最適解はしばしば不安定
- → ロバスト最適化が重要



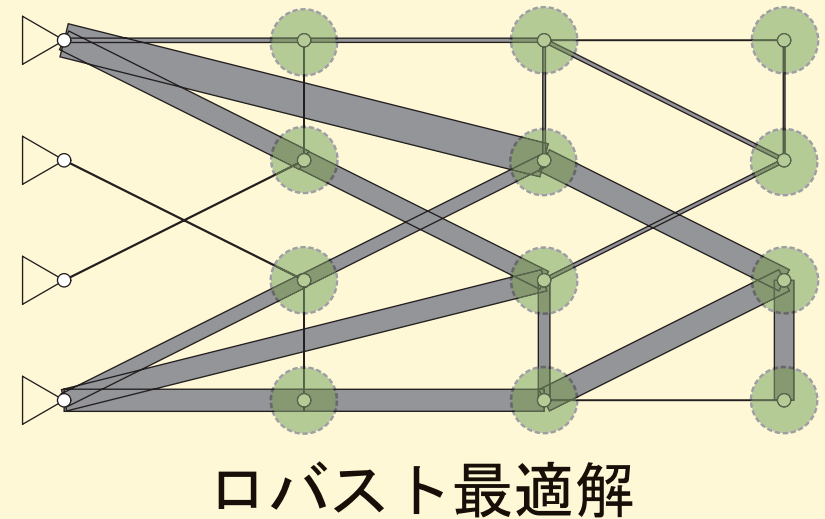
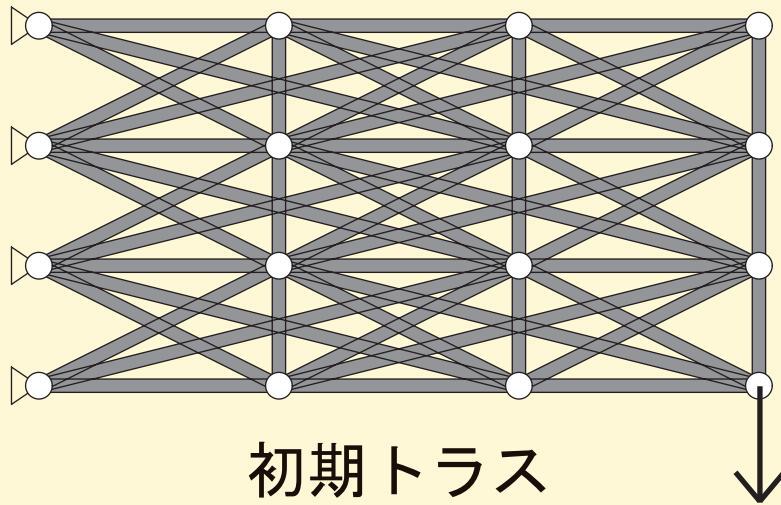
動機：ロバスト最適化

- トラスのコンプライアンス最小化
- 全ての節点に不確定外力を想定 [Ben-Tal & Nemirovski 97]
- ー コンプライアンスの最大値を最小化する



動機：ロバスト最適化

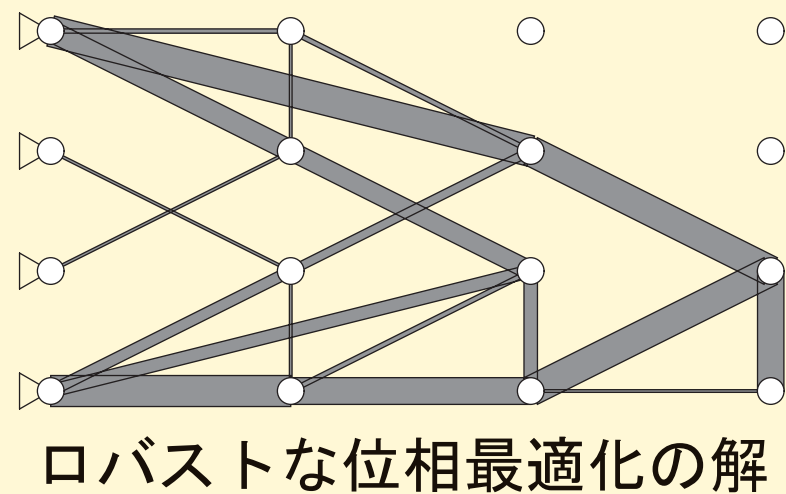
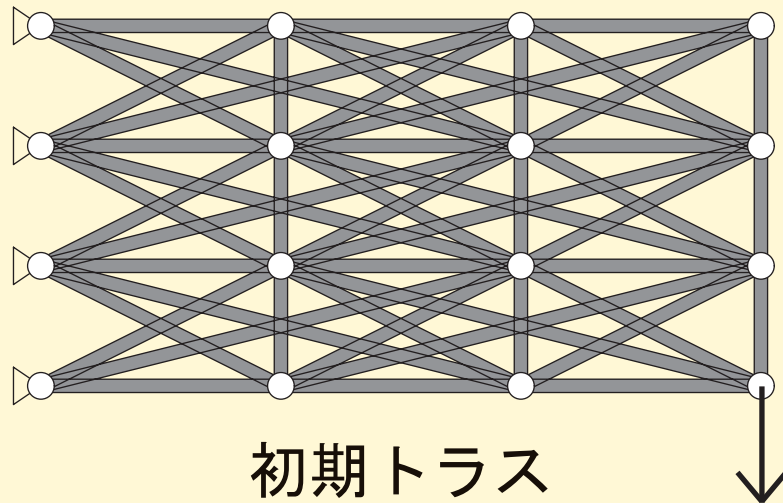
- トラスのコンプライアンス最小化
- 全ての節点に不確定外力を想定 [Ben-Tal & Nemirovski 97]
- ーコンプライアンスの最大値を最小化する



- 得られる解は安定
- 節点集合は変化しない ⇒ 位相は (必ずしも) 最適化されない

動機：ロバスト最適化

- トラスのコンプライアンス最小化
- 全ての節点に不確定外力を想定 [Ben-Tal & Nemirovski 97]
- ーコンプライアンスの最大値を最小化する



- 位相の変化を考慮した
ロバスト最適化問題の定式化・解法を提案する

コンプライアンス最適化

- コンプライアンス

$$c(\mathbf{a}; \mathbf{f}) = \sup_{\mathbf{u} \in \mathbf{R}^n} \{2\mathbf{f}^T \mathbf{u} - \mathbf{u}^T \mathbf{K}(\mathbf{a}) \mathbf{u}\}$$

- \mathbf{a} : 断面積, $\mathbf{K}(\mathbf{a})$: 剛性行列, \mathbf{u} : 変位, \mathbf{f} : 外力

コンプライアンス最適化

- コンプライアンス

$$c(\mathbf{a}; \mathbf{f}) = \sup_{\mathbf{u} \in \mathbf{R}^n} \{2\mathbf{f}^T \mathbf{u} - \mathbf{u}^T \mathbf{K}(\mathbf{a}) \mathbf{u}\}$$

- \mathbf{a} : 断面積, $\mathbf{K}(\mathbf{a})$: 剛性行列, \mathbf{u} : 変位, \mathbf{f} : 外力

- コンプライアンス最小化 (\mathbf{f} は固定)

$$\begin{aligned} \min_{\mathbf{a}} \quad & c(\mathbf{a}; \mathbf{f}) \\ \text{s. t.} \quad & \mathbf{a} \geq \mathbf{0}, \quad v(\mathbf{a}) \leq \bar{V} \end{aligned}$$

コンプライアンス最適化

- コンプライアンス

$$c(\mathbf{a}; \mathbf{f}) = \sup_{\mathbf{u} \in \mathbf{R}^n} \{2\mathbf{f}^T \mathbf{u} - \mathbf{u}^T \mathbf{K}(\mathbf{a}) \mathbf{u}\}$$

- \mathbf{a} : 断面積, $\mathbf{K}(\mathbf{a})$: 剛性行列, \mathbf{u} : 変位, \mathbf{f} : 外力

- コンプライアンス最小化 (\mathbf{f} は固定)

$$\begin{aligned} \min_{\mathbf{a}} \quad & c(\mathbf{a}; \mathbf{f}) \\ \text{s. t.} \quad & \mathbf{a} \geq \mathbf{0}, \quad v(\mathbf{a}) \leq \bar{V} \end{aligned}$$

- コンプライアンスの最大値 (最悪値)

$$\bar{c}_{\max}(\mathbf{a}) = \sup_{\mathbf{f} \in \mathbf{R}^n} \{c(\mathbf{a}; \mathbf{f}) \mid \mathbf{f} \in \bar{\mathcal{F}}\}$$

コンプライアンス最適化

- コンプライアンス

$$c(\mathbf{a}; \mathbf{f}) = \sup_{\mathbf{u} \in \mathbf{R}^n} \{2\mathbf{f}^T \mathbf{u} - \mathbf{u}^T \mathbf{K}(\mathbf{a}) \mathbf{u}\}$$

- \mathbf{a} : 断面積, $\mathbf{K}(\mathbf{a})$: 剛性行列, \mathbf{u} : 変位, \mathbf{f} : 外力

- コンプライアンス最小化 (\mathbf{f} は固定)

$$\begin{aligned} \min_{\mathbf{a}} \quad & c(\mathbf{a}; \mathbf{f}) \\ \text{s. t.} \quad & \mathbf{a} \geq \mathbf{0}, \quad v(\mathbf{a}) \leq \bar{V} \end{aligned}$$

- コンプライアンスの最大値 (最悪値)

$$\bar{c}_{\max}(\mathbf{a}) = \sup_{\mathbf{f} \in \bar{\mathcal{F}}} \{c(\mathbf{a}; \mathbf{f})\}$$

- ロバストなコンプライアンス最小化 : $\bar{c}_{\max}(\mathbf{a})$ を最小化する

外力の不確定性モデル

- 公称値 $\tilde{f} \in \mathbf{R}^n$
- 不確定性集合 [Ben-Tal & Nemirovski 97]

$$\bar{\mathcal{F}} = \{Qe \mid 1 \geq \|e\|\}$$

外力の不確定性モデル

- 公称値 $\tilde{f} \in \mathbf{R}^n$
- 不確定性集合 [Ben-Tal & Nemirovski 97]

$$\bar{\mathcal{F}} = \{Qe \mid 1 \geq \|e\|\}$$

- $Q \in \mathbf{R}^{n \times n}$: ばらつきを表す行列

$$Q = [\tilde{f} \quad rv_1 \quad rv_2 \quad \cdots \quad rv_{n-1}]$$

- $r \geq 0$: ばらつきの大きさ
- v_1, \dots, v_{n-1} : \tilde{f} の直交補空間の基底
- 全ての節点に不確定外力を想定

外力の不確定性モデル

- 公称値 $\tilde{f} \in \mathbf{R}^n$
- 不確定性集合 [Ben-Tal & Nemirovski 97]

$$\bar{\mathcal{F}} = \{Qe \mid 1 \geq \|e\|\}$$

- 設計に依存する不確定性モデル [提案]

$$\mathcal{F}(p) = \{\text{diag}(p)Qe \mid 1 \geq \|e\|\}$$

外力の不確定性モデル

- 公称値 $\tilde{f} \in \mathbf{R}^n$
- 不確定性集合 [Ben-Tal & Nemirovski 97]

$$\bar{\mathcal{F}} = \{Qe \mid 1 \geq \|e\|\}$$

- 設計に依存する不確定性モデル [提案]

$$\mathcal{F}(p) = \{\text{diag}(p)Qe \mid 1 \geq \|e\|\}$$

- $p \in \mathbf{R}^n$: 節点 (の自由度) の存在を表すベクトル

$$p_j = \begin{cases} 1 & \text{if 自由度 } j \text{ が存在} \\ 0 & \text{otherwise} \end{cases}$$

最適化の過程で節点が消えれば、対応する j について $p_j = 0$ とする

断面積の下限値

- 断面積の下限値に関する制約条件

$$a_i = 0 \quad \text{or} \quad a_{\min} \leq a_i \leq a_{\max} \quad (\spadesuit)$$

- 部材の存在を表す変数 t_i を導入

$$t_i = \begin{cases} 1 & \text{if 部材 } i \text{ が存在} \\ 0 & \text{otherwise} \end{cases}$$

断面積の下限値

- 断面積の下限値に関する制約条件

$$a_i = 0 \quad \text{or} \quad a_{\min} \leq a_i \leq a_{\max} \quad (\spadesuit)$$

- 部材の存在を表す変数 t_i を導入

$$t_i = \begin{cases} 1 & \text{if 部材 } i \text{ が存在} \\ 0 & \text{otherwise} \end{cases}$$

- $(\spadesuit) \Leftrightarrow$

$$a_i \begin{bmatrix} 1 \\ -1 \end{bmatrix} \leq t_i \begin{bmatrix} a_{\max} \\ -a_{\min} \end{bmatrix}$$

断面積の下限値

- 断面積の下限値に関する制約条件

$$a_i = 0 \quad \text{or} \quad a_{\min} \leq a_i \leq a_{\max} \quad (\spadesuit)$$

- 部材の存在を表す変数 t_i を導入

$$t_i = \begin{cases} 1 & \text{if 部材 } i \text{ が存在} \\ 0 & \text{otherwise} \end{cases}$$

- $(\spadesuit) \Leftrightarrow$

$$a_i \begin{bmatrix} 1 \\ -1 \end{bmatrix} \leq t_i \begin{bmatrix} a_{\max} \\ -a_{\min} \end{bmatrix}$$

- 部材の存在 t_i と 節点の自由度の存在 p_j の関係

$$0 \leq p_j \leq 1$$

$$t_i \leq p_j, \quad \forall i \in \{i \mid \text{部材 } i \text{ が自由度 } j \text{ に接続}\}$$

コンプライアンスの最悪値

- コンプライアンスの最悪値 (定義)

$$c_{\max}(\mathbf{a}) = \sup_{\mathbf{f} \in \mathbf{R}^n} \{c(\mathbf{a}; \mathbf{f}) \mid \mathbf{f} \in \mathcal{F}(\mathbf{p}(\mathbf{a}))\}$$

- ただし, $\mathcal{F}(\mathbf{p}) = \{\text{diag}(\mathbf{p})\mathbf{Q}\mathbf{e} \mid 1 \geq \|\mathbf{e}\|\}$
- \mathbf{p} は \mathbf{a} の関数

コンプライアンスの最悪値

- コンプライアンスの最悪値 (定義)

$$c_{\max}(\mathbf{a}) = \sup_{\mathbf{f} \in \mathbf{R}^n} \{c(\mathbf{a}; \mathbf{f}) \mid \mathbf{f} \in \mathcal{F}(\mathbf{p}(\mathbf{a}))\}$$

- ただし, $\mathcal{F}(\mathbf{p}) = \{\text{diag}(\mathbf{p})\mathbf{Q}\mathbf{e} \mid 1 \geq \|\mathbf{e}\|\}$
- \mathbf{p} は \mathbf{a} の関数

- Schur の補元に関する補題より

$$\tau \geq c_{\max}(\mathbf{a}) \quad \Leftrightarrow \quad \begin{bmatrix} \tau \mathbf{I} & (\text{diag}(\mathbf{p})\mathbf{Q})^{\text{T}} \\ \text{diag}(\mathbf{p})\mathbf{Q} & \mathbf{K}(\mathbf{a}) \end{bmatrix} \succeq \mathbf{O}$$

(半正定値)

ロバスト位相最適化問題

- 最悪コンプライアンスの最小化

$$\begin{aligned} \min \quad & \tau \\ \text{s. t.} \quad & \tau \geq c_{\max}(\mathbf{a}) \end{aligned}$$

ロバスト位相最適化問題

- 最悪コンプライアンスの最小化

$$\begin{aligned} \min \quad & \tau \\ \text{s. t.} \quad & \tau \geq c_{\max}(\mathbf{a}) \end{aligned}$$

- 0-1 変数を含む半正定値計画問題 として定式化

$$\begin{aligned} \min_{\tau, \mathbf{a}, \mathbf{t}, \mathbf{p}} \quad & \tau \\ \text{s. t.} \quad & \begin{bmatrix} \tau \mathbf{I} & (\text{diag}(\mathbf{p})\mathbf{Q})^T \\ \text{diag}(\mathbf{p})\mathbf{Q} & \mathbf{K}(\mathbf{a}) \end{bmatrix} \succeq \mathbf{O} \\ & 0 \leq p_j \leq 1 \\ & t_i \leq p_j, \quad \forall i \in \{i \mid \text{部材 } i \text{ が自由度 } j \text{ に接続}\} \\ & a_i \begin{bmatrix} 1 \\ -1 \end{bmatrix} \leq t_i \begin{bmatrix} a_{\max} \\ -a_{\min} \end{bmatrix} \\ & \mathbf{a} \geq \mathbf{0}, \quad v(\mathbf{a}) \leq \bar{V} \\ & t_i \in \{0, 1\} \end{aligned}$$

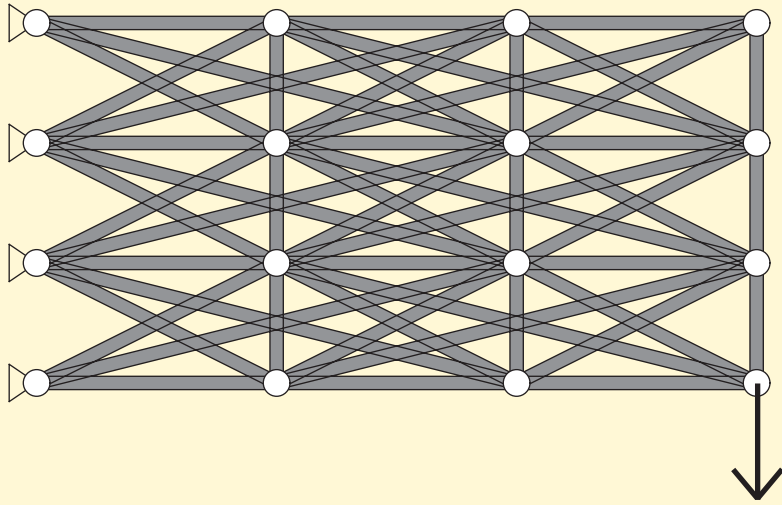
ロバスト位相最適化問題

- 最悪コンプライアンスの最小化

$$\begin{aligned} \min \quad & \tau \\ \text{s. t.} \quad & \tau \geq c_{\max}(\mathbf{a}) \end{aligned}$$

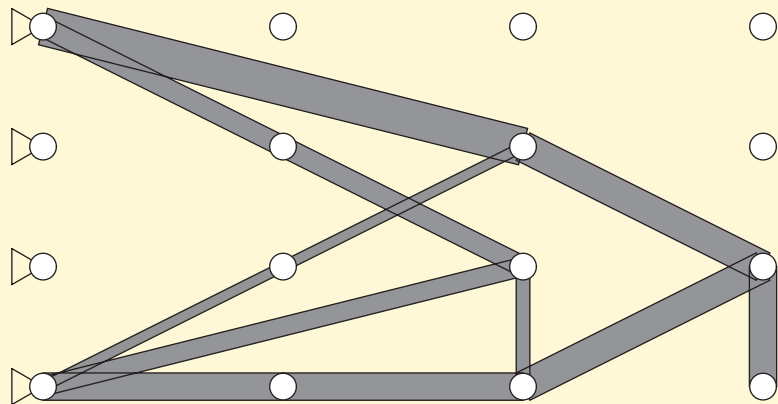
- 0-1 変数を含む半正定値計画問題 として定式化
 - 0-1 制約を緩和すると半正定値計画問題
→ 主双対内点法で容易に解ける
 - 0-1 変数に関する分枝限定法
→ 大域的最適解が得られる

ex.) 51 部材トラス

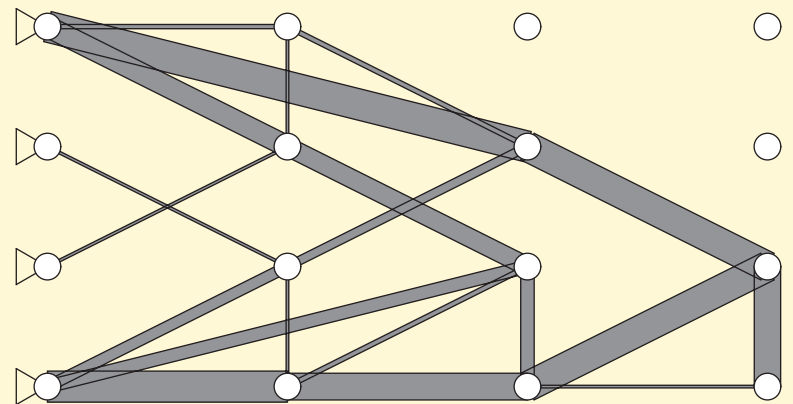


初期トラス

ex.) 51 部材トラス

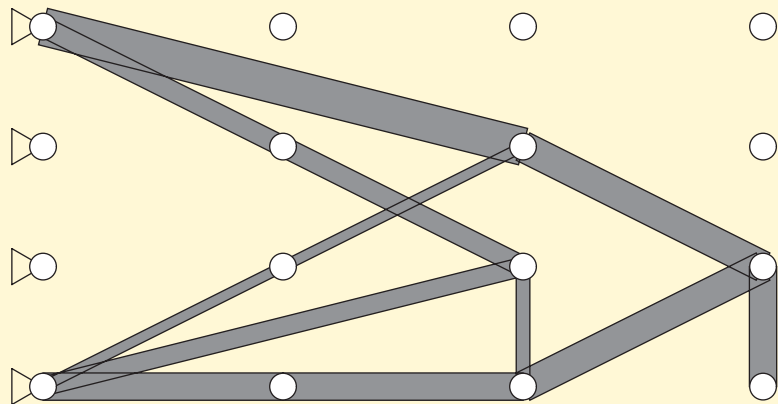


通常最適解 (♣)

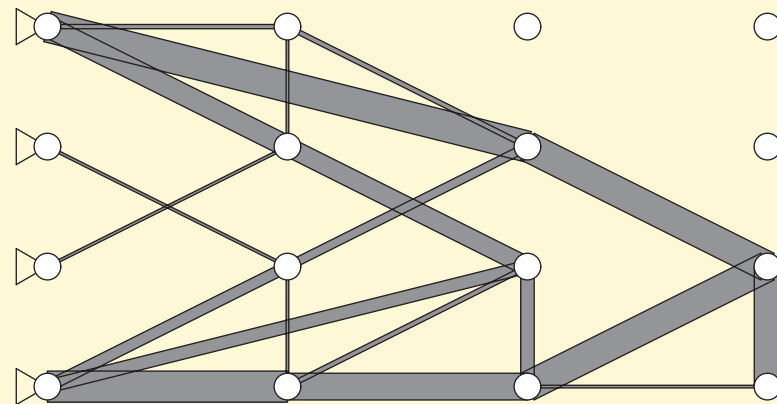


ロバスト最適解 (大域的最適解)

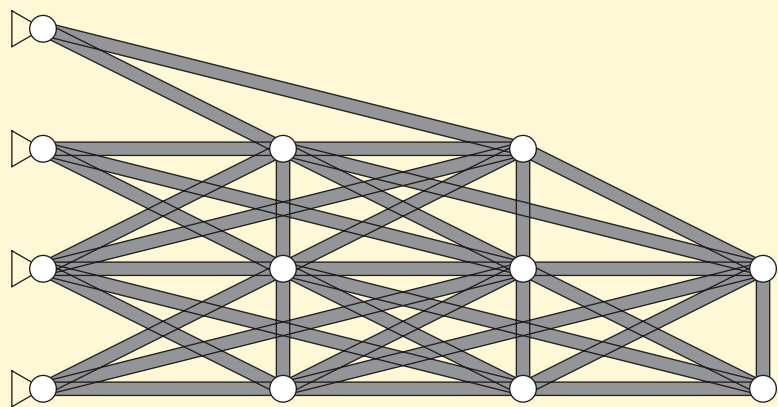
ex.) 51 部材トラス



通常最適解 (♣)

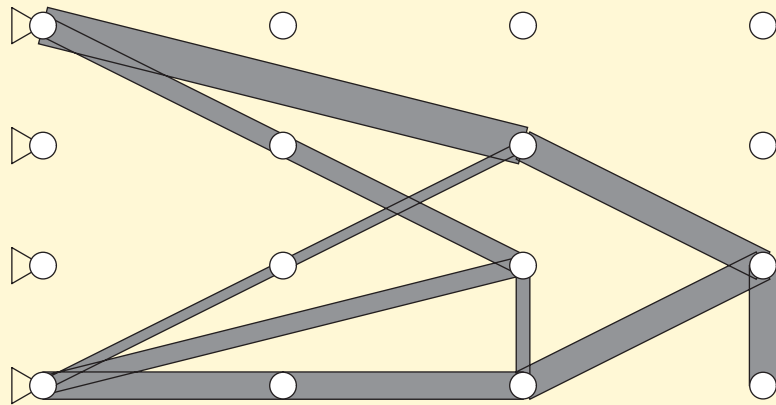


ロバスト最適解 (大域的最適解)

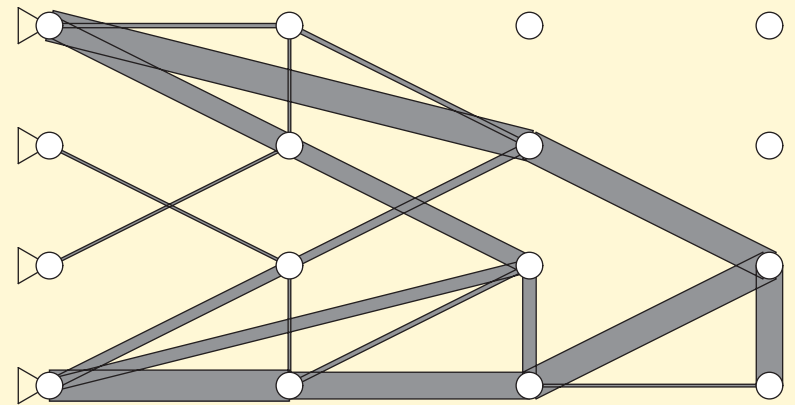


(♣) から推測される初期解 (Ini♣)

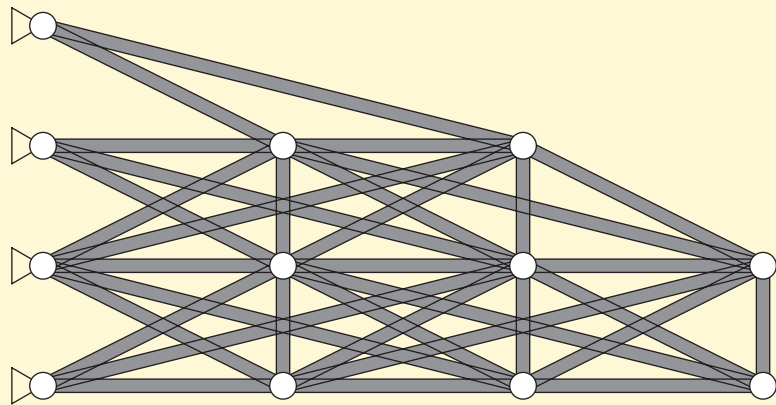
ex.) 51 部材トラス



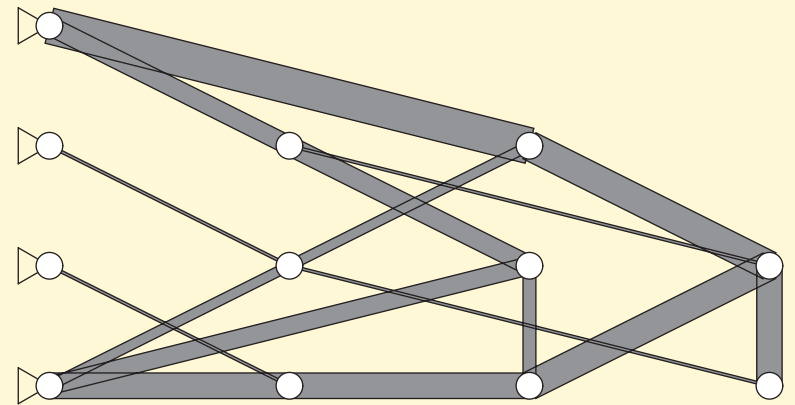
通常の最適解 (♣)



ロバスト最適解 (大域的最適解)

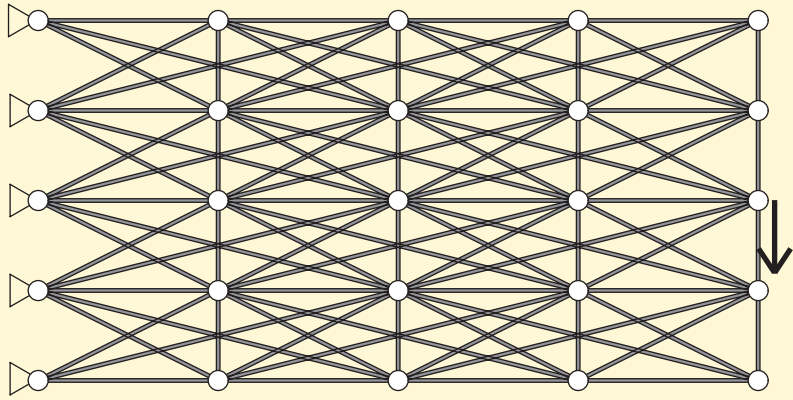


(♣) から推測される初期解 (Ini♣)



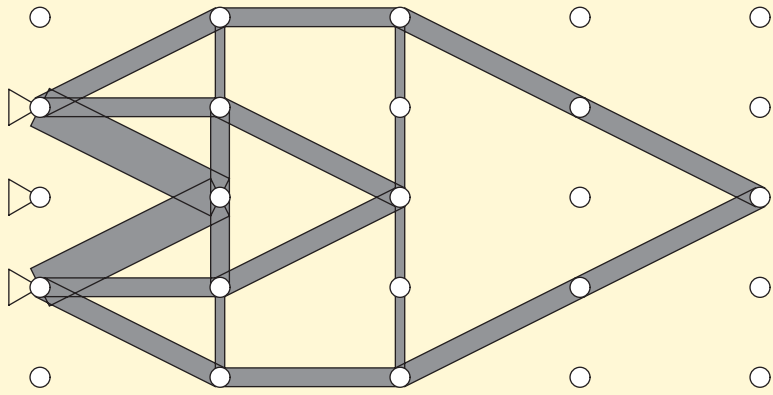
(Ini♣) から得られる
ロバスト最適解
≠ 大域的最適解

ex.) 92 部材トラス

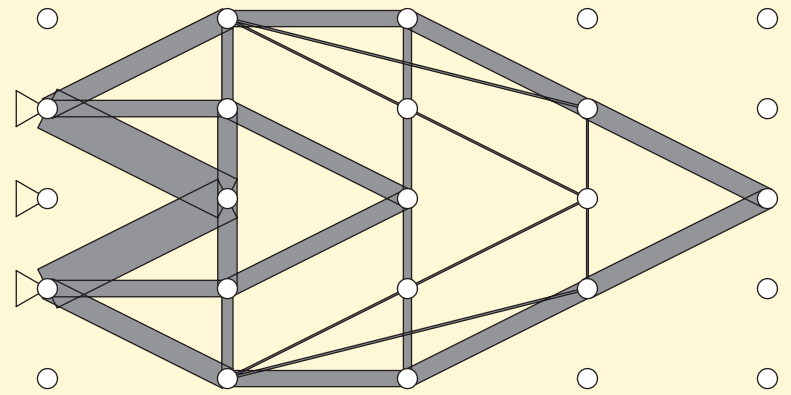


初期トラス

ex.) 92 部材トラス

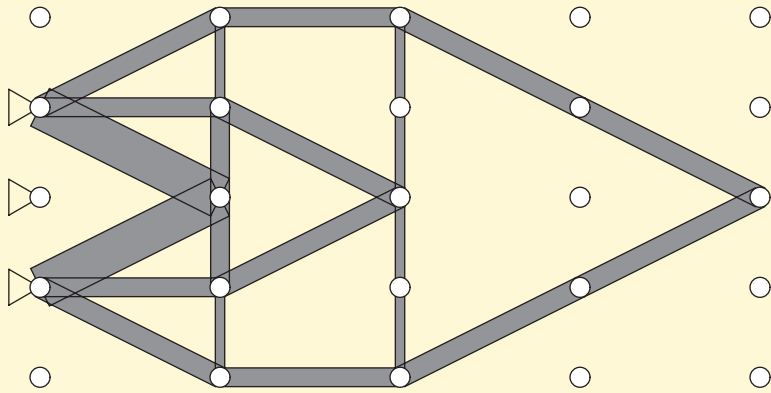


通常
の最適解

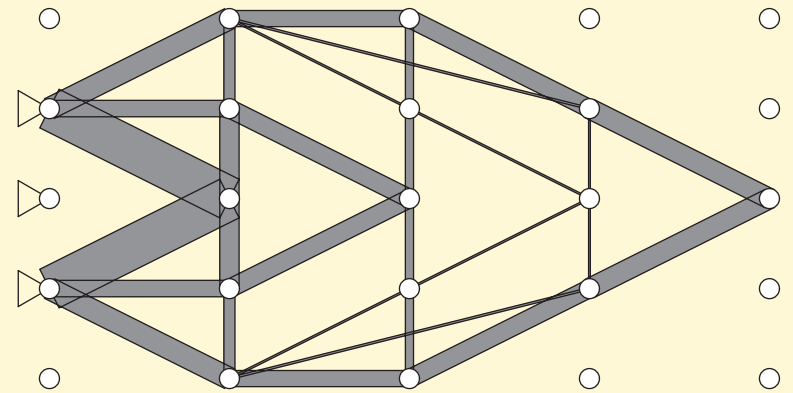


ロバスト
最適解

ex.) 92 部材トラス



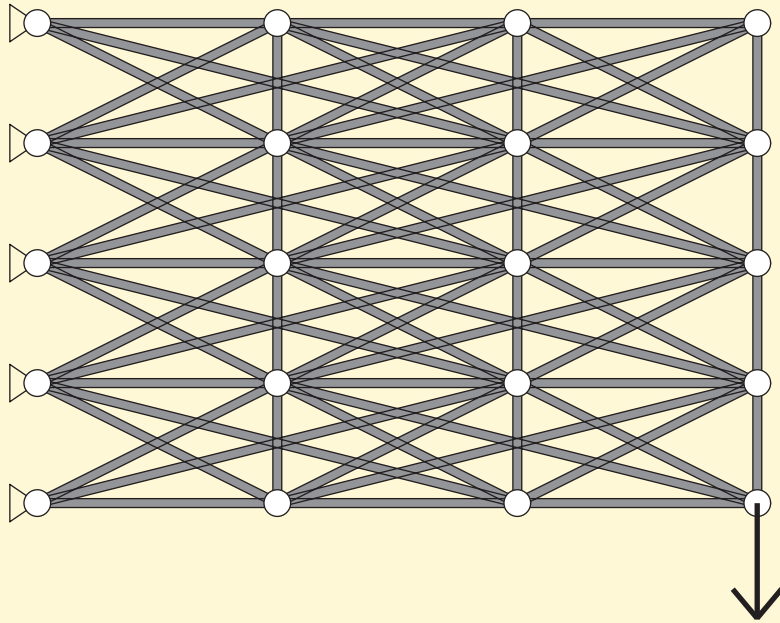
通常最適解



ロバスト最適解

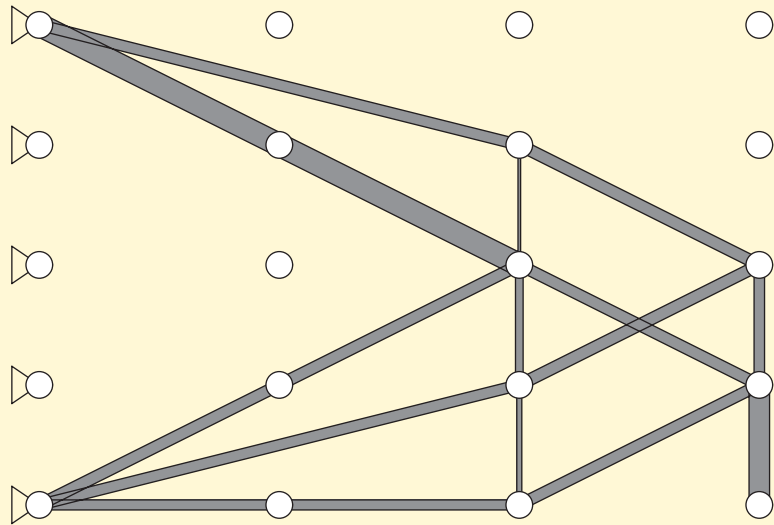
	c_{\max} (kN · cm)	rank D	n	Nodes	CPU (s)
(TO)	10.2038	22	26	1	11.4
(RTO)	10.5247	30	28	9444	57,176.0

ex.) 67 部材トラス

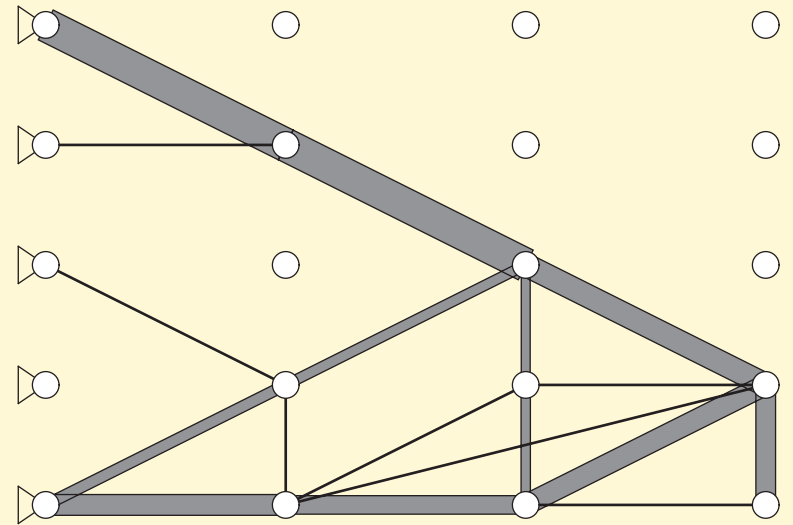


初期トラス

ex.) 67 部材トラス

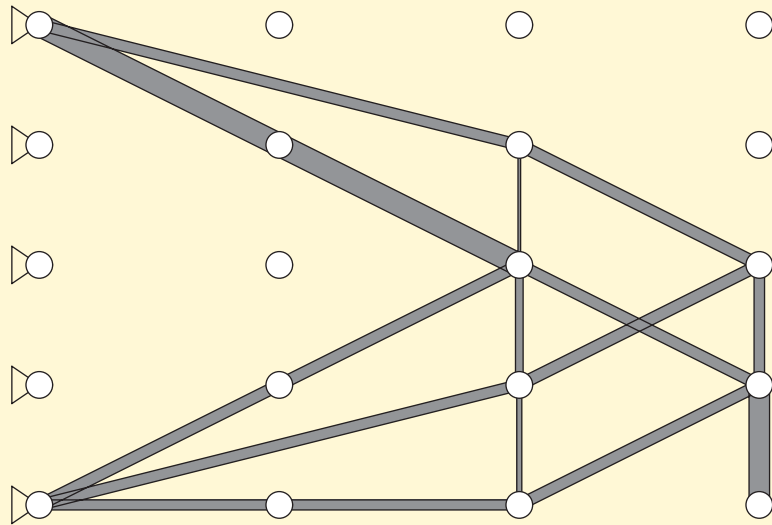


通常最適解

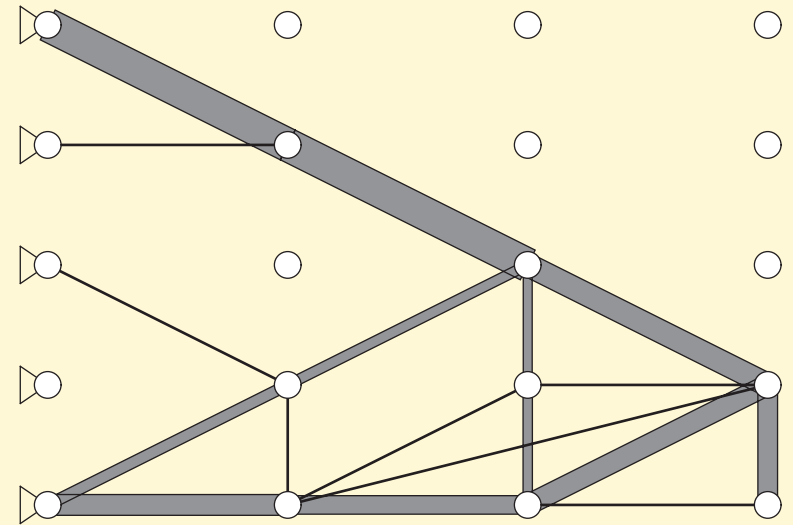


ロバスト最適解

ex.) 67 部材トラス



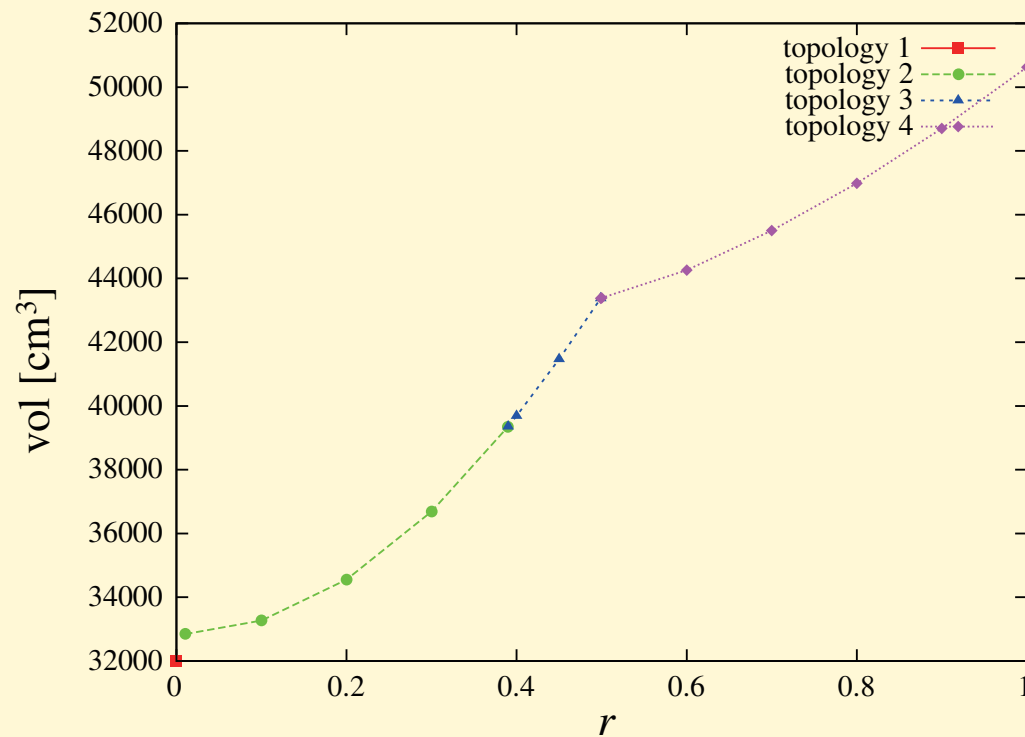
通常最適解



ロバスト最適解

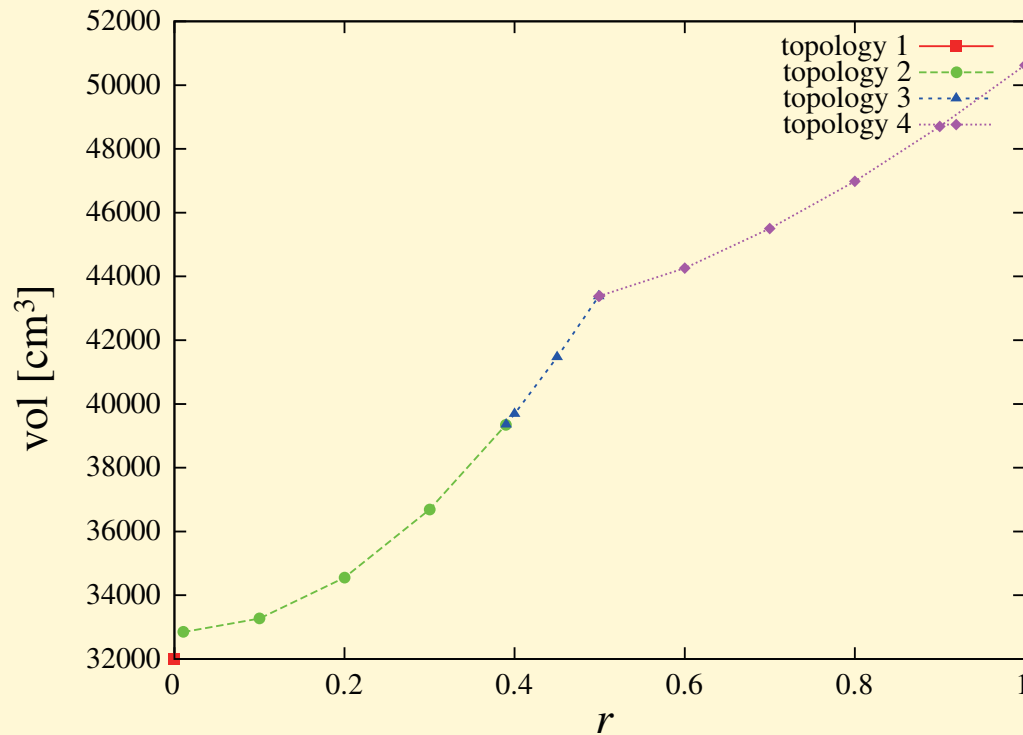
	c_{\max} (kN · cm)	rank D	n	Nodes	CPU (s)
(TO)	3.4105	16	20	1	3.8
(RTO)	3.5585	17	16	8396	14,300.0

不確定性の大きさと最適位相の関係 (22 部材トラス)

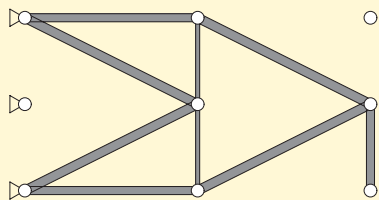


- 不確定性の大きさ r
VS.
最適解の体積 vol
- コンプライアンスの
上限を指定,
体積を最小化

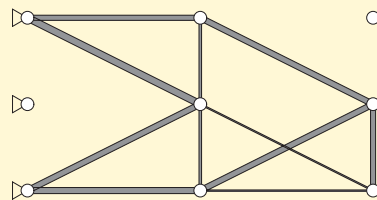
不確定性の大きさと最適位相の関係 (22 部材トラス)



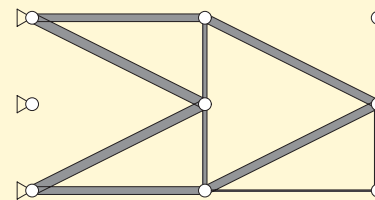
- 不確定性の大きさ r
VS.
最適解の体積 vol
- コンプライアンスの
上限を指定,
体積を最小化



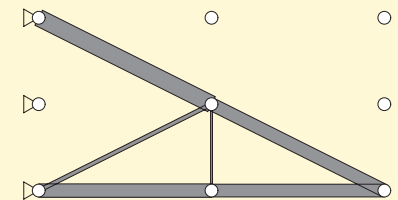
topology 1



topology 2



topology 3



topology 4

ここまでのまとめ

- **ロバスト最適設計**
 - 構造物に要求される性能が制約
 - ロバスト制約：最悪の場合でも制約を満たすことを要請
- **トラスのロバスト最適化**
 - コンプライアンス（の最悪値）の最小化
 - 外力の不確定性

→ 最適解は必ず安定なトラス
- **大域的最適化**
 - 整数変数を含む半正定値計画問題
 - 分枝限定法 & 主双対内点法

応力制約 について

- 応力制約には 固有の難しさがある
- (トラスの) 応力は 変位 u の線形関数

応力制約 について

- 応力制約には 固有の難しさがある
 - (トラスの) 応力は 変位 u の線形関数 (!)
 - 部材 i の断面積 > 0 \Rightarrow 線形制約
 - 部材 i の断面積 $= 0$ \Rightarrow 制約を取り除くべき
- (!) 全体としては 非線形の制約

ロバスト最適設計（復習）

- 通常の最適設計

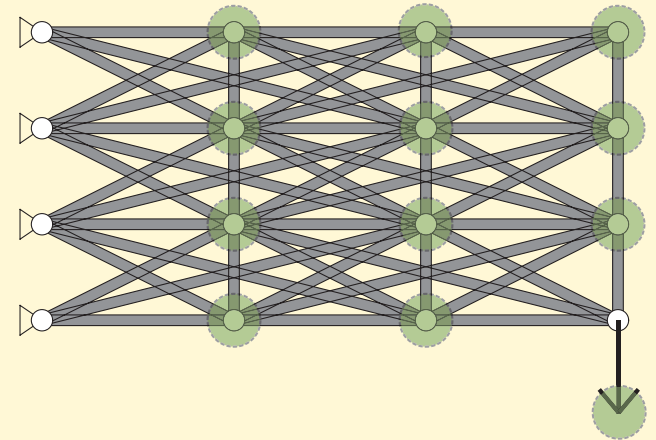
$$\begin{aligned} \min_{\boldsymbol{x} \in \mathcal{X}} \quad & \text{vol}(\boldsymbol{x}) \\ \text{s. t.} \quad & g_q(\boldsymbol{u}) \leq 0, \quad \boldsymbol{K}(\boldsymbol{x})\boldsymbol{u} = \boldsymbol{f} \end{aligned}$$

- \boldsymbol{x} : 部材の断面積 $\boldsymbol{K}(\boldsymbol{x})$: 剛性行列 \boldsymbol{u} : 変位 \boldsymbol{f} : 外力

- ロバスト制約

$$\max_{\boldsymbol{u}} \{g_q(\boldsymbol{u}) \mid \boldsymbol{K}(\boldsymbol{x})\boldsymbol{u} \in \bar{\mathcal{F}}\} \leq 0 \quad (\spadesuit)$$

- $\bar{\mathcal{F}}$: 外力の不確定性集合



ロバスト最適設計（復習）

- 通常の最適設計

$$\begin{aligned} \min_{\boldsymbol{x} \in \mathcal{X}} \quad & \text{vol}(\boldsymbol{x}) \\ \text{s. t.} \quad & g_q(\boldsymbol{u}) \leq 0, \quad \boldsymbol{K}(\boldsymbol{x})\boldsymbol{u} = \boldsymbol{f} \end{aligned}$$

- \boldsymbol{x} : 部材の断面積 $\boldsymbol{K}(\boldsymbol{x})$: 剛性行列 \boldsymbol{u} : 変位 \boldsymbol{f} : 外力

- ロバスト制約

$$\max_{\boldsymbol{u}} \{g_q(\boldsymbol{u}) \mid \boldsymbol{K}(\boldsymbol{x})\boldsymbol{u} \in \bar{\mathcal{F}}\} \leq 0 \quad (\spadesuit)$$

- $\bar{\mathcal{F}}$: 外力の不確定性集合
- ロバスト最適設計

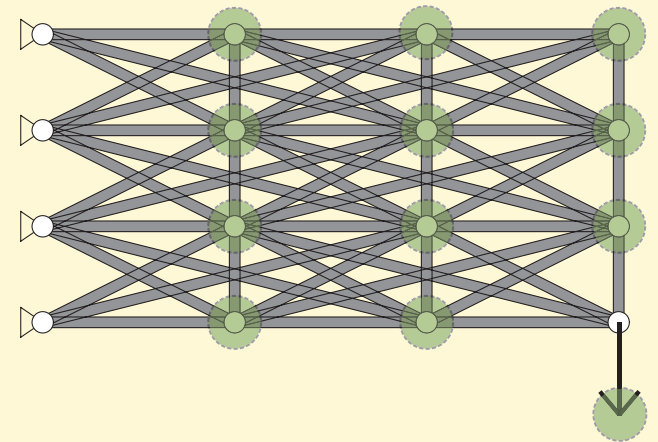
$$\begin{aligned} \min_{\boldsymbol{x} \in \mathcal{X}} \quad & \text{vol}(\boldsymbol{x}) \\ \text{s. t.} \quad & (\spadesuit) \end{aligned}$$

不確定性のモデル

- 不確定性集合

$$\bar{\mathcal{F}} = \{\tilde{\mathbf{f}} + \mathbf{F}_0 \boldsymbol{\zeta} \mid \alpha \geq \|\boldsymbol{\zeta}_j\| (\forall j)\}$$

- \mathbf{F}_0 : 定行列 (単位行列など)
- $\alpha \geq 0$: 不確定性のレベル
- j : 節点の番号
- すべての節点に外力が作用し得る



不確定性のモデル

- 不確定性集合

$$\bar{\mathcal{F}} = \{\tilde{\mathbf{f}} + \mathbf{F}_0\boldsymbol{\zeta} \mid \alpha \geq \|\boldsymbol{\zeta}_j\| (\forall j)\}$$

- 設計に依存する不確定性集合

$$\mathcal{F}(\mathbf{s}) = \{\tilde{\mathbf{f}} + \mathbf{F}_0\boldsymbol{\zeta} \mid \alpha s_j \geq \|\boldsymbol{\zeta}_j\| (\forall j)\}$$

不確定性のモデル

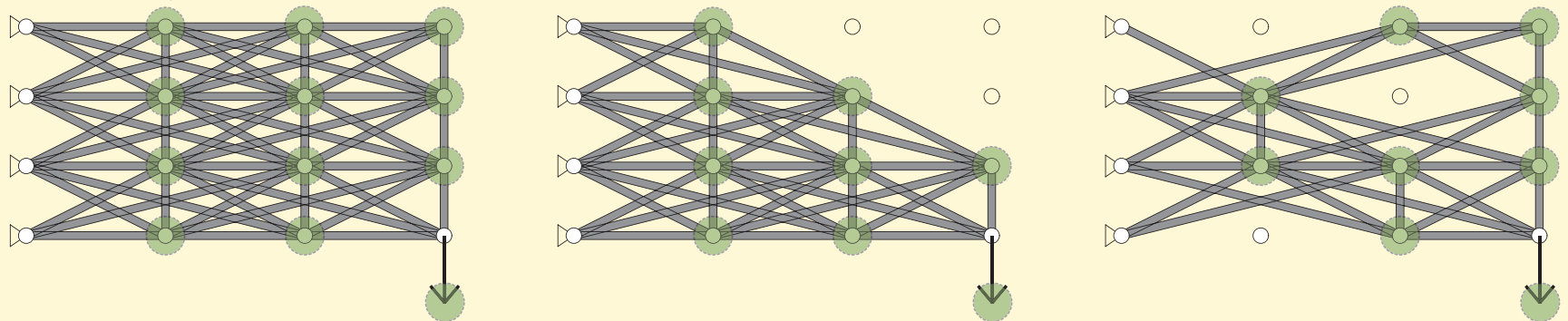
- 不確定性集合

$$\bar{\mathcal{F}} = \{\tilde{\mathbf{f}} + \mathbf{F}_0\boldsymbol{\zeta} \mid \alpha \geq \|\boldsymbol{\zeta}_j\| (\forall j)\}$$

- 設計に依存する不確定性集合

$$\mathcal{F}(\mathbf{s}) = \{\tilde{\mathbf{f}} + \mathbf{F}_0\boldsymbol{\zeta} \mid \alpha s_j \geq \|\boldsymbol{\zeta}_j\| (\forall j)\}$$

- $s_j = \begin{cases} 1 & \text{if 節点 } j \text{ が存在} \\ 0 & \text{otherwise} \end{cases}$



不確定性のモデル

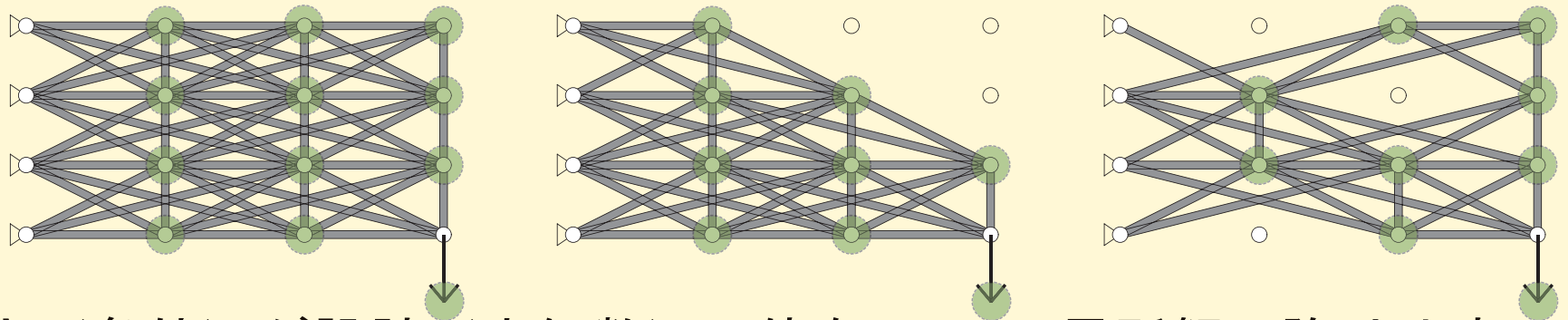
- 不確定性集合

$$\bar{\mathcal{F}} = \{\tilde{\mathbf{f}} + \mathbf{F}_0\boldsymbol{\zeta} \mid \alpha \geq \|\boldsymbol{\zeta}_j\| (\forall j)\}$$

- 設計に依存する不確定性集合

$$\mathcal{F}(\mathbf{s}) = \{\tilde{\mathbf{f}} + \mathbf{F}_0\boldsymbol{\zeta} \mid \alpha s_j \geq \|\boldsymbol{\zeta}_j\| (\forall j)\}$$

- $s_j = \begin{cases} 1 & \text{if 節点 } j \text{ が存在} \\ 0 & \text{otherwise} \end{cases}$



- 外力（条件）が設計（未知数）に依存 → 局所解に陥りやすい

離散断面積

- 部材の断面積 : x_i

$$x_i \in \{0, \xi_1, \dots, \xi_k\}$$

- 0-1 変数 t_{ip} を用いて

e.g., [Stolpe & Svanberg 03]

$$x_i = \sum_{p=1}^k \xi_p t_{ip}, \quad \sum_{p=1}^k t_{ip} \leq 1$$

離散断面積

- 部材の断面積 : x_i

$$x_i \in \{0, \xi_1, \dots, \xi_k\}$$

- 0-1 変数 t_{ip} を用いて

e.g., [Stolpe & Svanberg 03]

$$x_i = \sum_{p=1}^k \xi_p t_{ip}, \quad \sum_{p=1}^k t_{ip} \leq 1$$

- 節点の存在を示す変数 s_j と t_{ip} の関係

$$t_{ip} \leq s_j \leq 1$$

$$s_j \leq \sum_{i \in \mathcal{I}_j} \sum_{p=1}^k t_{ip}$$

- $i \in \mathcal{I}_j \Leftrightarrow$ 部材 i が節点 j に接続している

応力制約

- 応力 σ_i のロバスト制約

$$\max_u \{ \sigma_i(\mathbf{u}) \mid \mathbf{K}(\mathbf{x})\mathbf{u} \in \mathcal{F}(\mathbf{s}) \} \leq \bar{\sigma} \quad (\diamond \mathbf{a})$$

$$\min_u \{ \sigma_i(\mathbf{u}) \mid \mathbf{K}(\mathbf{x})\mathbf{u} \in \mathcal{F}(\mathbf{s}) \} \geq -\bar{\sigma} \quad (\diamond \mathbf{b})$$

- 制約 (\diamond) は KKT 条件に書き直せる (Lagrange 乗数を用いる)

応力制約

- 応力 σ_i のロバスト制約

$$\max_u \{\sigma_i(\mathbf{u}) \mid \mathbf{K}(\mathbf{x})\mathbf{u} \in \mathcal{F}(\mathbf{s})\} \leq \bar{\sigma} \quad (\diamond \mathbf{a})$$

$$\min_u \{\sigma_i(\mathbf{u}) \mid \mathbf{K}(\mathbf{x})\mathbf{u} \in \mathcal{F}(\mathbf{s})\} \geq -\bar{\sigma} \quad (\diamond \mathbf{b})$$

- 制約 (\diamond) は KKT 条件に書き直せる (Lagrange 乗数を用いる)
- $x_i = 0 \Rightarrow$ 応力制約を取り除く

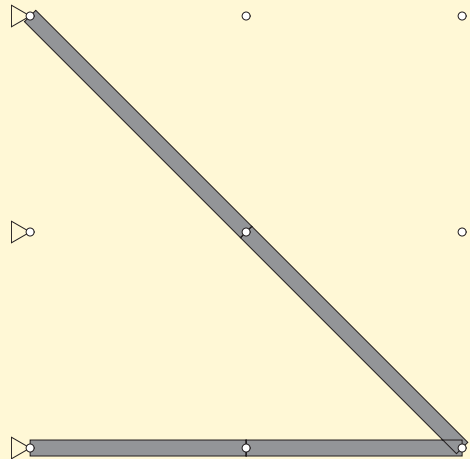
$$|\sigma_i(\mathbf{u})| \leq \bar{\sigma} + M(1 - t_i), \quad t_i = \begin{cases} 1 & \text{if } x_i > 0 \\ 0 & \text{if } x_i = 0 \end{cases}$$

- Lagrange 乗数の制約も同様にして取り除く

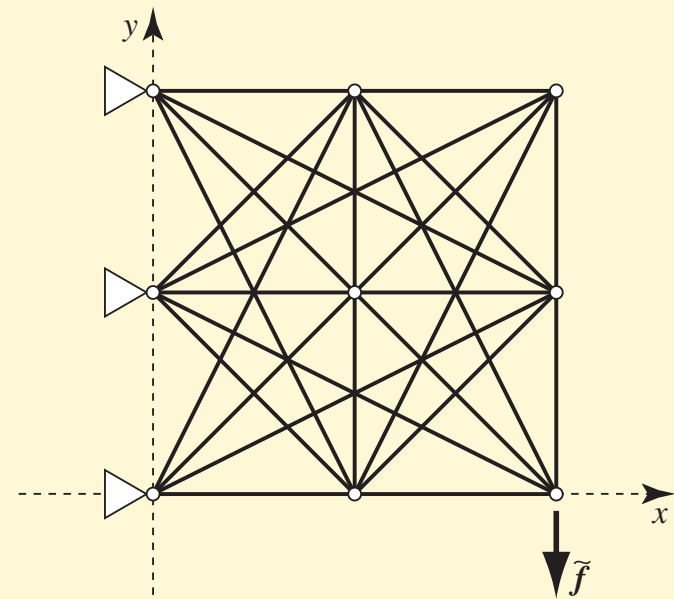
混合整数計画問題

- 有限個の部材断面積の候補
- 不確定な外力
 - 存在する節点のみに作用する ← 設計に依存
- 応力制約
 - 存在する部材のみに課す ← 設計に依存
 - Lagrange 乗数についても同様
- トラスの安定性
 - 必要条件を定式化

Ex.) 26 部材トラス ($\mathcal{X} = \{0, 20\}^m$, $\|\tilde{f}\| = 10.0$)

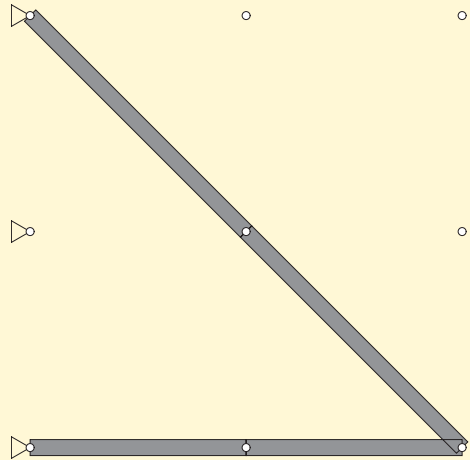


通常の最適解

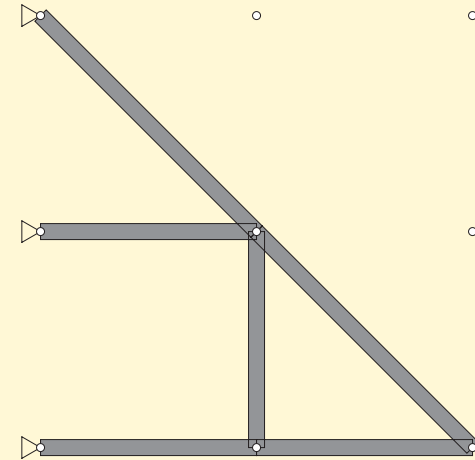


初期設定

Ex.) 26 部材トラス ($\mathcal{X} = \{0, 20\}^m$, $\|\tilde{f}\| = 10.0$)



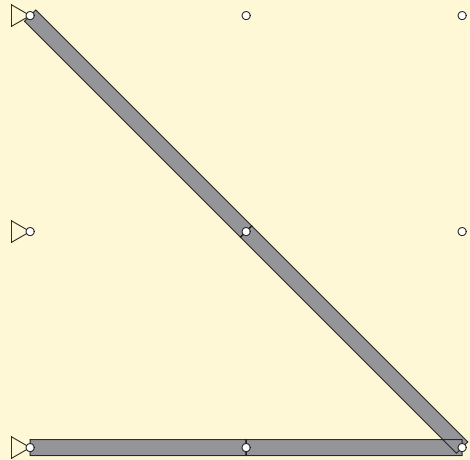
通常最適解



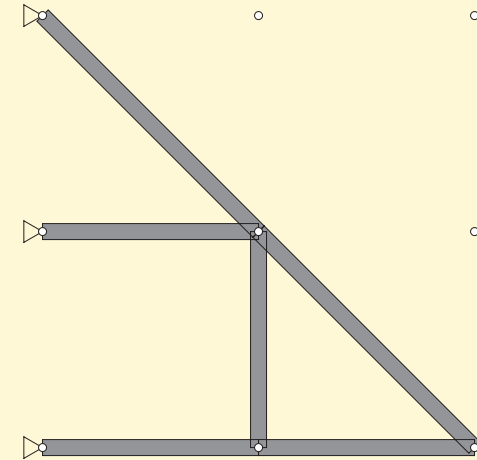
ロバスト最適解 ($\alpha = 1.0$)

- ロバスト最適解の存在部材は不確定性のレベルに依存する

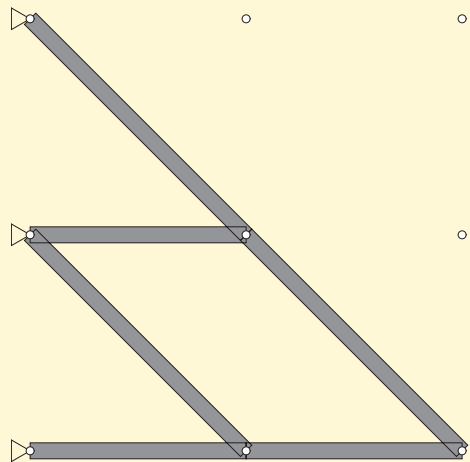
Ex.) 26 部材トラス ($\mathcal{X} = \{0, 20\}^m$, $\|\tilde{f}\| = 10.0$)



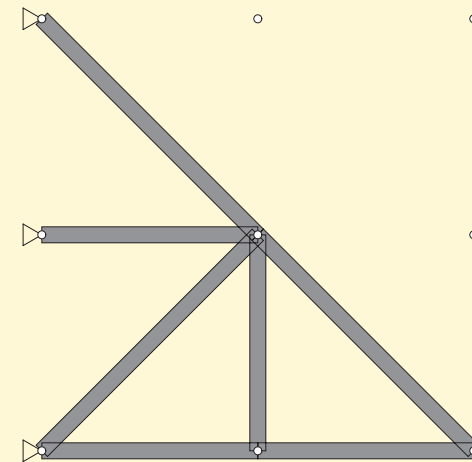
通常の最適解



ロバスト最適解 ($\alpha = 1.0$)



ロバスト最適解 ($\alpha = 1.5$)



ロバスト最適解 ($\alpha = 3.0$)

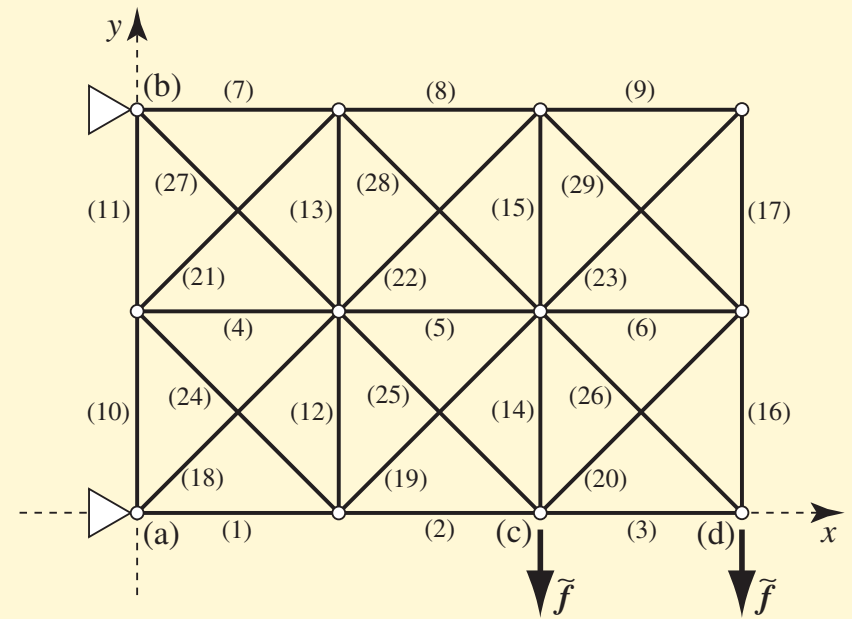
Ex.) 26 部材トラス ($\mathcal{X} = \{0, 20\}^m$, $\|\tilde{f}\| = 10.0$)

- MIP solver: CPLEX Ver. 11.2

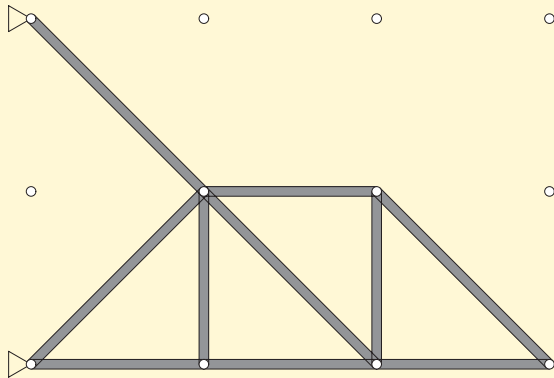
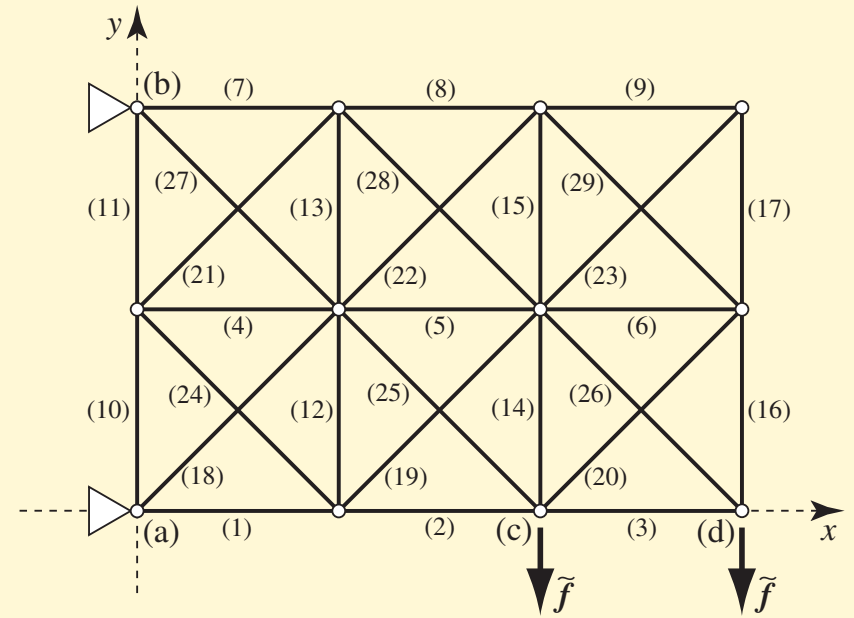
α	Vol. (cm ³)	CPU (s)
nominal	9656.9	≤ 0.1
1.0	13656.9	4,029.8
1.5	14485.3	9,241.6
3.0	16485.3	630,338.8
3.3	16485.3	29,507.6

Ex.) 29 部材トラス ($\alpha = 1.0$)

- ロバスト最適解の存在部材は部材断面積の候補に依存

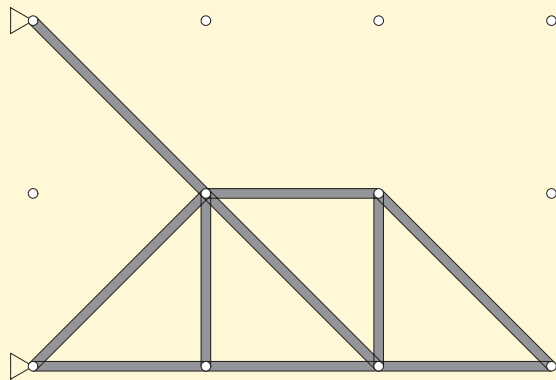
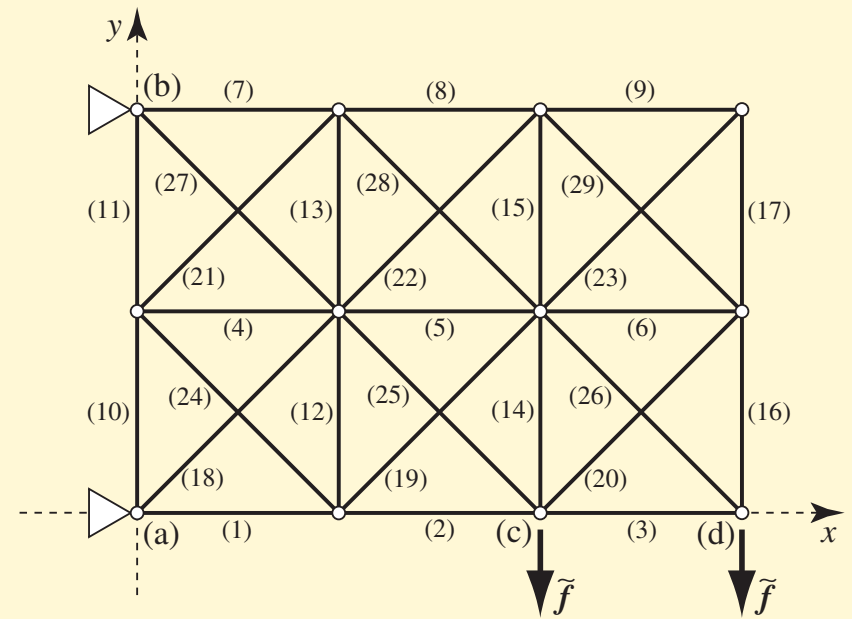


Ex.) 29 部材トラス ($\alpha = 1.0$)

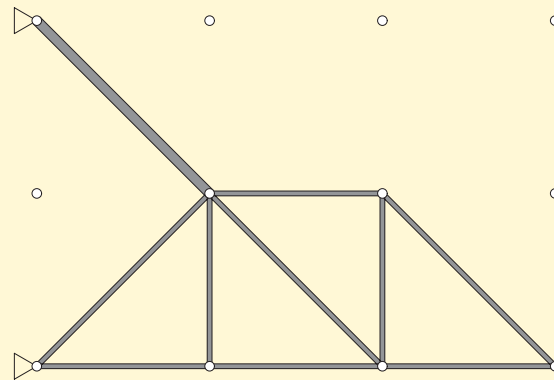


ロバスト最適解
 $(\mathcal{X} = \{0, 10\}^m)$

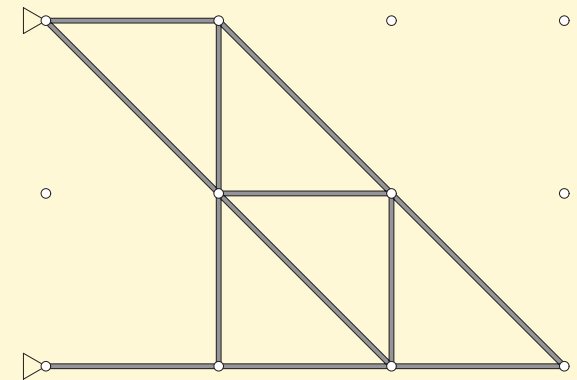
Ex.) 29 部材トラス ($\alpha = 1.0$)



ロバスト最適解
 $(\mathcal{X} = \{0, 10\}^m)$

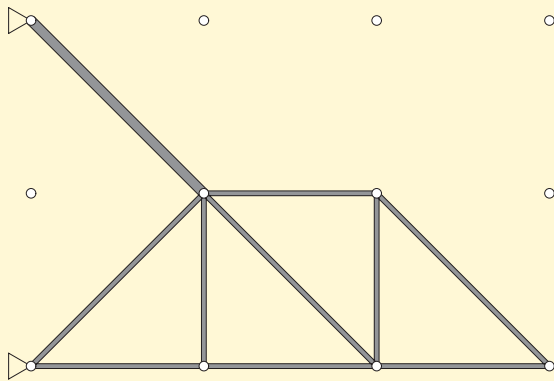


ロバスト最適解
 $(\mathcal{X} = \{0, 5, 10\}^m)$

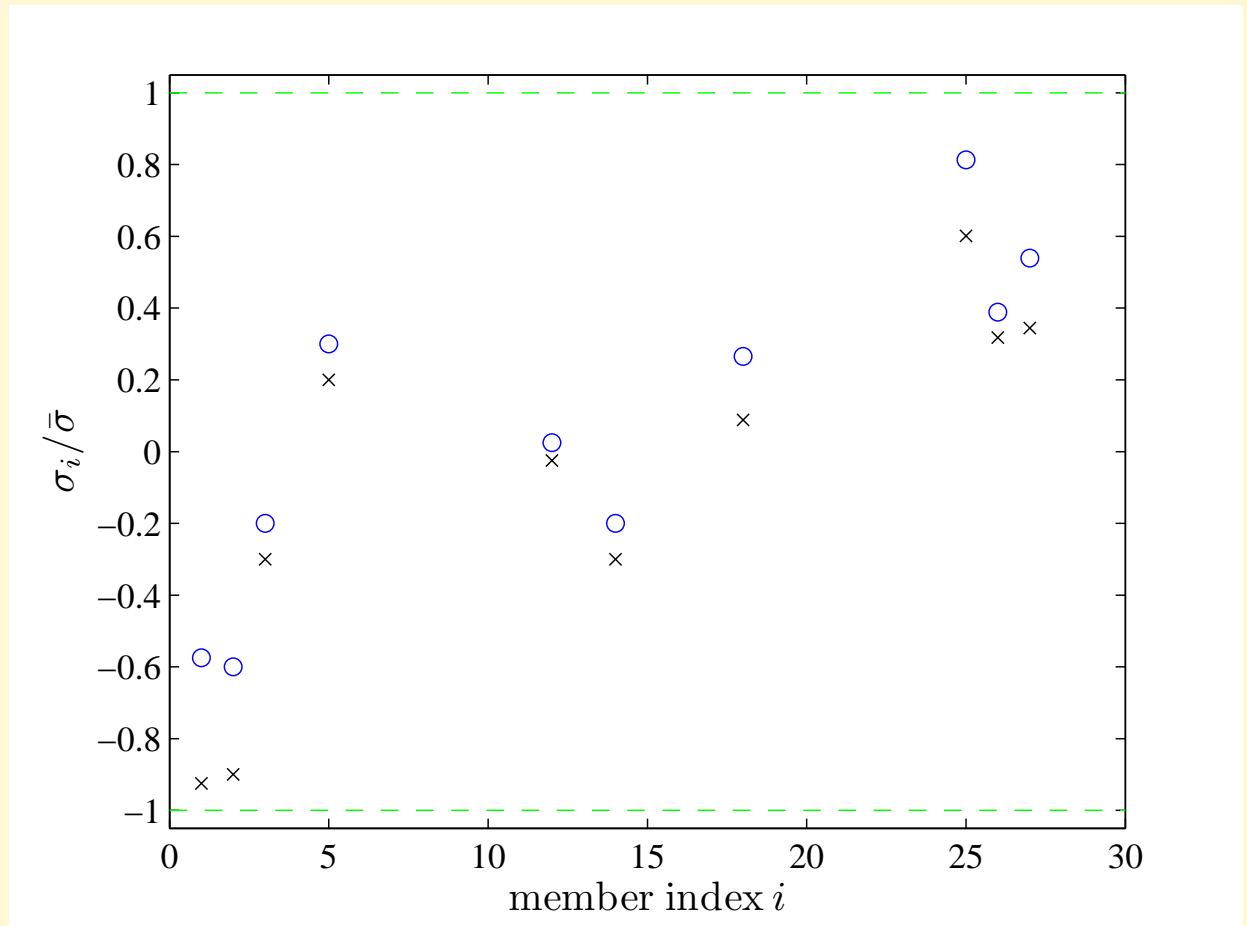


ロバスト最適解
 $(\mathcal{X} = \{0, 5, 15\}^m)$

Ex.) 29 部材トラス ($\alpha = 1.0$)

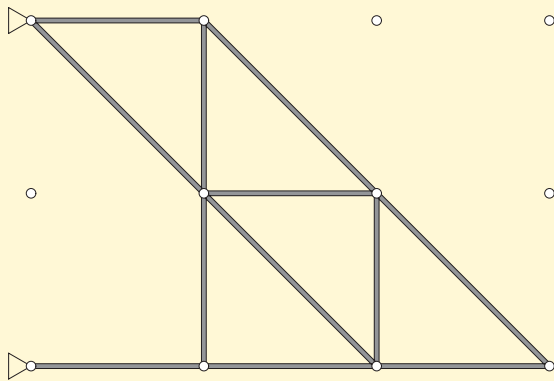


robust opt.
 $(\mathcal{X} = \{0, 5, 10\}^m)$

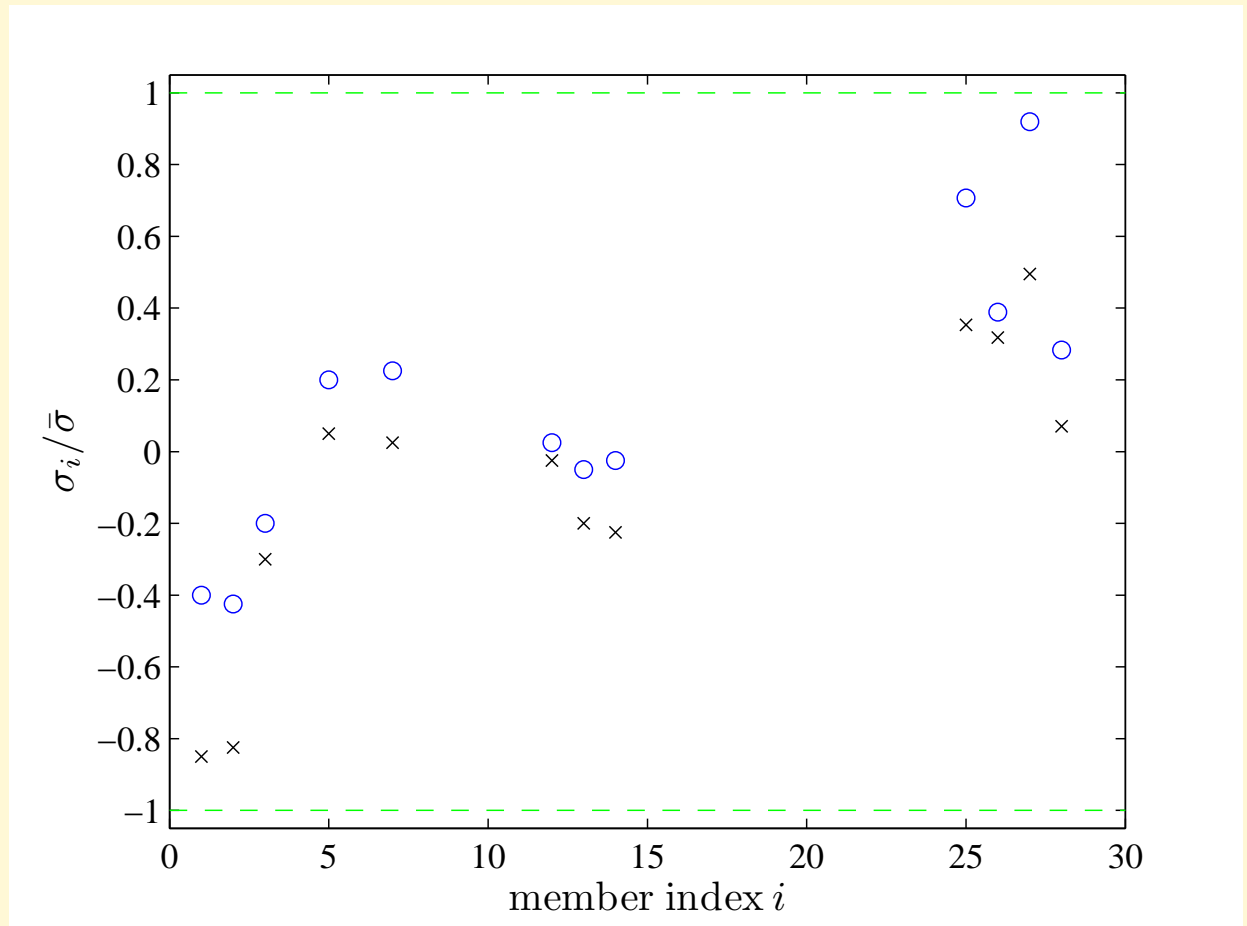


最悪シナリオでの部材応力

Ex.) 29 部材トラス ($\alpha = 1.0$)



robust opt.
 $(\mathcal{X} = \{0, 5, 15\}^m)$



最悪シナリオでの部材応力

ここまでのまとめ

- 既往の研究

- 応力や変位の制約

[Au, Cheng, Tham & Zheng 03] [Doltsinis & Kang 04]
[Elishakoff, Haftka & Fang 94] [Jiang, Han & Liu 07] [Lee & Park 01] [Pantelides & Ganzerli 98]

存在部材（トポロジー）が変化しない

- コンプライアンス制約 [Ben-Tal & Nemirovski 97]
存在節点が変わらない

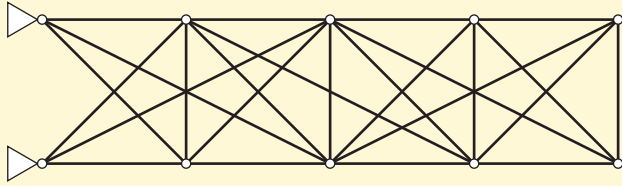
- トポロジーの最適化

- トポロジーに依存する不確定性集合
存在節点のみに外力が作用し得る
 - 混合整数計画

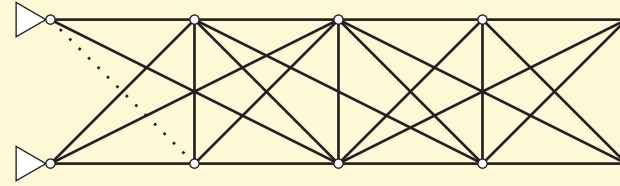
大域的 or 局所的 最適化

- **ロバスト構造最適化**
 - 大域的な手法 → 大規模な問題は解き難い
 - 局所的な手法 → 得られる解が初期解に大きく依存
 - 固有の困難点：荷重などの条件が設計に依存
- **大域性の保証がほんとうに欲しい問題とは...**
 - 最悪シナリオを求める問題

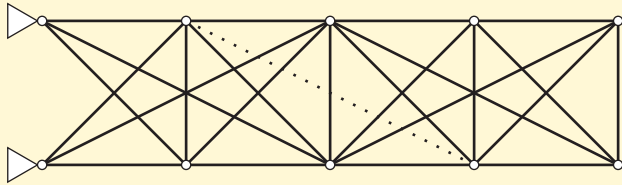
動機：構造物の損傷と冗長性



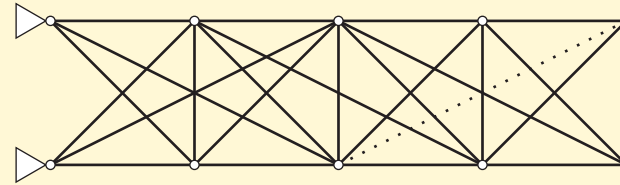
健全な構造物



1本消失



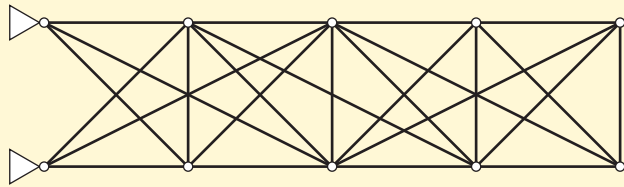
1本消失



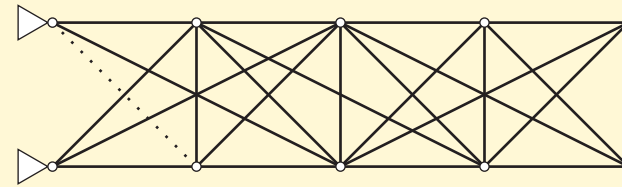
1本消失

...

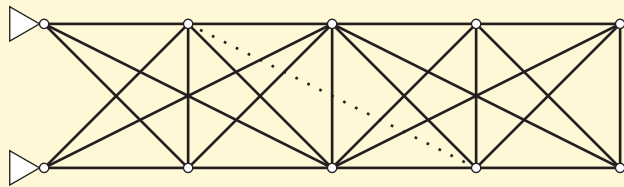
動機：構造物の損傷と冗長性



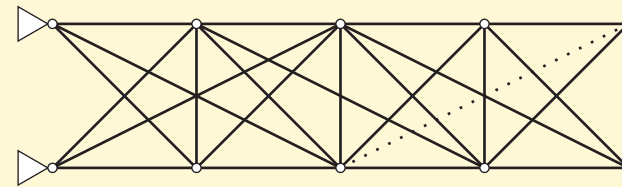
健全な構造物



1本消失



1本消失



1本消失

...

- 最悪の損傷のシナリオとは？
 - 「最悪」の意味
 - 「最悪シナリオにおいて制約を満たす」 = ロバスト制約
 - 「冗長性」との関連性

動機：冗長性の指標

- 不静定次数 $s = n - \text{rank } \mathbf{H}$
- strength redundancy factor $r = l_{\text{intact}} / (l_{\text{intact}} - l_{\text{damaged}})$
[Frangopol & Curley 87]
- l_{intact} : 損傷のない構造物の終局耐力
- l_{damaged} : 損傷を被った構造物の終局耐力

動機：冗長性の指標

- 不静定次数 $s = n - \text{rank } \mathbf{H}$
- strength redundancy factor $r = l_{\text{intact}} / (l_{\text{intact}} - l_{\text{damaged}})$
[Frangopol & Curley 87]
- sensitivity index $1/r$ [Ohi, Ito & Li 04]
 - 終局耐力 = 塑性崩壊荷重
 - 損傷 = 部材の消失

動機：冗長性の指標

- 不静定次数 $s = n - \text{rank } \mathbf{H}$
- strength redundancy factor $r = l_{\text{intact}} / (l_{\text{intact}} - l_{\text{damaged}})$
[Frangopol & Curley 87]
- sensitivity index $1/r$ [Ohi, Ito & Li 04]
- $(P(D) - P(C)) / P(C)$ [Fu & Frangopol 90]
 - $P(C)$: 構造物全体の崩壊確率
 - $P(D)$: 構造要素の損傷確率

動機：冗長性の指標

- 不静定次数 $s = n - \text{rank } \mathbf{H}$
- strength redundancy factor $r = l_{\text{intact}} / (l_{\text{intact}} - l_{\text{damaged}})$
[Frangopol & Curley 87]
- sensitivity index $1/r$ [Ohi, Ito & Li 04]
- $(P(D) - P(C)) / P(C)$ [Fu & Frangopol 90]
- residual strength index l_i / l_u [Feng & Moses 86]
 - l_u : 構造物の終局強度
 - l_i : 構造要素 i が損傷したときの構造物の終局強度

動機：冗長性の指標

- 不静定次数 $s = n - \text{rank } \mathbf{H}$
- strength redundancy factor $r = l_{\text{intact}} / (l_{\text{intact}} - l_{\text{damaged}})$
[Frangopol & Curley 87]
- sensitivity index $1/r$ [Ohi, Ito & Li 04]
- $(P(D) - P(C)) / P(C)$ [Fu & Frangopol 90]
- residual strength index l_i / l_u [Feng & Moses 86]
- redundancy-strength index l_u / l_y [Husain & Tsopelas 04]
 - l_u : 構造物の終局強度
 - l_y : “first significant yielding” が生じたときの構造物の強度

動機：冗長性の指標

- 不静定次数 $s = n - \text{rank } \mathbf{H}$
- strength redundancy factor $r = l_{\text{intact}} / (l_{\text{intact}} - l_{\text{damaged}})$
[Frangopol & Curley 87]
- sensitivity index $1/r$ [Ohi, Ito & Li 04]
- $(P(D) - P(C)) / P(C)$ [Fu & Frangopol 90]
- residual strength index l_i / l_u [Feng & Moses 86]
- redundancy-strength index l_u / l_y [Husain & Tsopelas 04]
- strong redundancy / weak redundancy [Kanno & Ben-Haim 11]

共通点：構造要素の損傷による性能の低下を考察

→ 損傷の最悪シナリオは？

塑性崩壊荷重：トラス

- 最悪シナリオ := 塑性崩壊荷重 が最も低下する損傷シナリオ
- 外力

$$f = f_d + \lambda f_r$$

- λ : 载荷パラメータ $f_r (\neq 0)$: 基準荷重 f_d : 固定

- 釣合式

$$\sum_{i=1}^m q_i b_i = f$$

- q_i : 軸力

- 降伏条件

$$|q_i| \leq q_{yi} \quad (i = 1, \dots, m)$$

塑性崩壊荷重：トラス

- 不確定性のない場合
- 塑性崩壊荷重 = 次の問題の最適値（上界定理）

$$\begin{aligned} \min_{\mathbf{u}, \mathbf{c}} \quad & -\mathbf{f}_d^T \mathbf{u} + \sum_{i=1}^m q_{yi} c_i \\ \text{s. t.} \quad & \mathbf{f}_r^T \mathbf{u} = 1, \\ & c_i \geq |\mathbf{b}_i^T \mathbf{u}| \quad (i = 1, \dots, m). \end{aligned}$$

- 線形計画問題
 - 変数
 - \mathbf{u} : 変位
 - \mathbf{c} : 部材の伸び

部材の損傷のモデル

- 部材の損傷の不確定性モデル

- たかだか α 本の部材が消失
- どの部材が損傷するかは 特定しない

← 不確定性

- $t \in \{0, 1\}^m$: 部材の存在／消失を表す

- $\tilde{t} = (1, 1, \dots, 1)$: 消失部材のない初期状態

- $t_i = \begin{cases} 1 & \text{部材 } i \text{ が存在} \\ 0 & \text{部材 } i \text{ が消失} \end{cases}$

- 不確定性集合

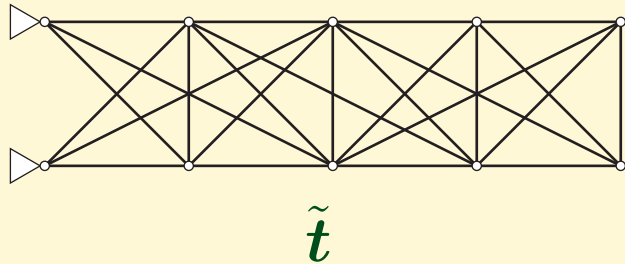
$$\mathcal{U}(\alpha; \tilde{t}) = \left\{ t \in \{0, 1\}^m \mid t \leq \tilde{t}, \sum_{i=1}^m |\tilde{t}_i - t_i| \leq \alpha \right\}$$

損傷の不確定集合の例

- 不確定性集合

$$\mathcal{U}(\alpha; \tilde{\mathbf{t}}) = \left\{ \mathbf{t} \in \{0, 1\}^m \mid \mathbf{t} \leq \tilde{\mathbf{t}}, \sum_{i=1}^m |\tilde{t}_i - t_i| \leq \alpha \right\}$$

- 例 : $\alpha = 1$

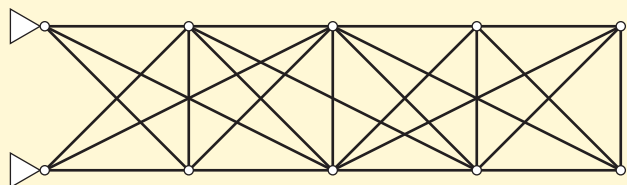


損傷の不確定集合の例

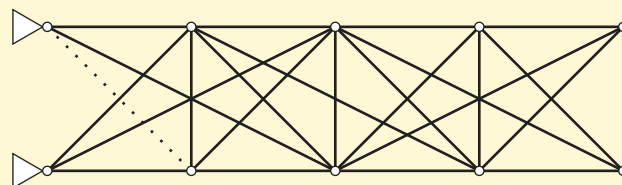
- 不確定性集合

$$\mathcal{U}(\alpha; \tilde{t}) = \left\{ t \in \{0, 1\}^m \mid t \leq \tilde{t}, \sum_{i=1}^m |\tilde{t}_i - t_i| \leq \alpha \right\}$$

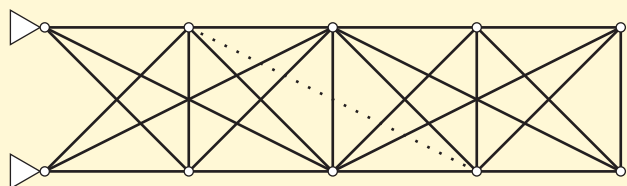
- 例 : $\alpha = 1$



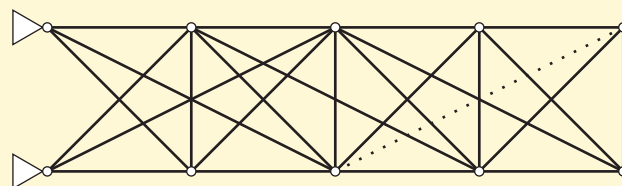
\tilde{t}



1 本消失



1 本消失



1 本消失

...

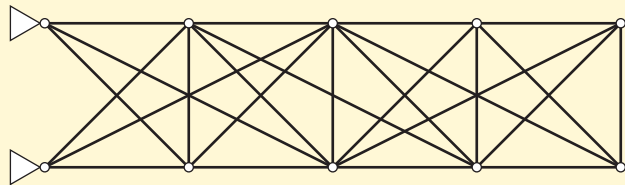
- $t \in \mathcal{U}(\alpha; \tilde{t})$ のうち 応答量が最悪となる t は?

損傷の不確定集合の例

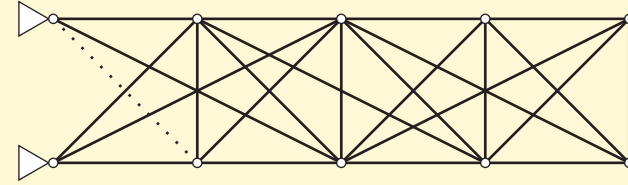
- 不確定性集合

$$\mathcal{U}(\alpha; \tilde{\mathbf{t}}) = \left\{ \mathbf{t} \in \{0, 1\}^m \mid \mathbf{t} \leq \tilde{\mathbf{t}}, \sum_{i=1}^m |\tilde{t}_i - t_i| \leq \alpha \right\}$$

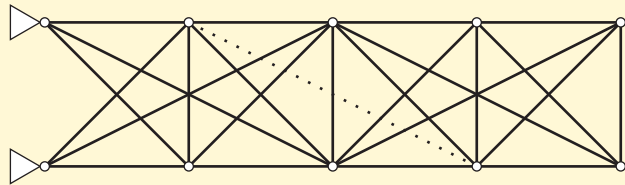
- 例 : $\alpha = 2$



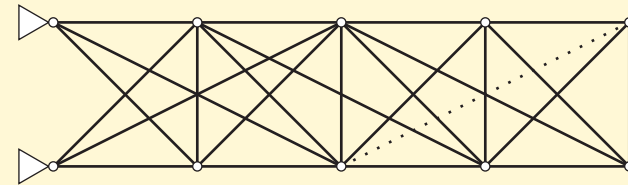
$\tilde{\mathbf{t}}$



1 本消失

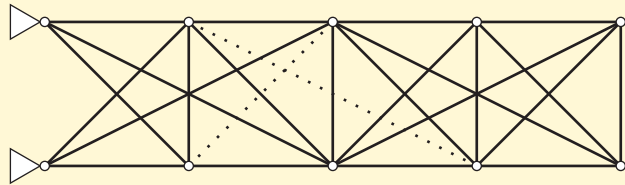


1 本消失

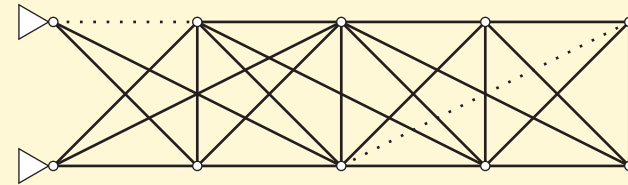


1 本消失

...



2 本消失



2 本消失

...

損傷の最悪シナリオ

- 不確定性集合 $\mathcal{U}(\alpha; \tilde{t})$
- 塑性崩壊荷重係数 $\lambda(t)$
- 最悪シナリオの定義

← t の関数とみる

$$t^{\text{worst}} = \arg \min \{ \lambda(t) \mid t \in \mathcal{U}(\alpha; \tilde{t}) \} \quad (\clubsuit)$$

損傷の最悪シナリオ

- 不確定性集合 $\mathcal{U}(\alpha; \tilde{t})$
- 塑性崩壊荷重係数 $\lambda(t)$ ← t の関数とみる
- 最悪シナリオの定義

$$t^{\text{worst}} = \arg \min \{ \lambda(t) \mid t \in \mathcal{U}(\alpha; \tilde{t}) \} \quad (\clubsuit)$$

- 最適化問題 (\clubsuit) を解けばよい
 - 局所最適解 では不十分
 - → 混合整数計画問題 (MIP) に帰着
 - 大域的な最適性 (= 最悪であること) を保証 (e.g., 分枝限定法, 切除平面法)

混合整数計画としての定式化

- 上界定理を元に考える
- 部材の消失を考慮すると

$$\begin{aligned} \min_{\mathbf{u}, \mathbf{c}, q_y} \quad & -\mathbf{f}_d^T \mathbf{u} + \sum_{i=1}^m q_{yi} c_i \\ \text{s. t.} \quad & \mathbf{f}_r^T \mathbf{u} = 1, \\ & c_i \geq |\mathbf{b}_i^T \mathbf{u}| \quad (i = 1, \dots, m). \end{aligned}$$

- $\tilde{q}_{yi} = \begin{cases} \tilde{q}_{yi} & \text{部材 } i \text{ が存在} \\ 0 & \text{部材 } i \text{ が消失} \end{cases}$

混合整数計画としての定式化

- 上界定理を元に考える
- 部材の消失を考慮すると

$$\begin{aligned} \min_{\mathbf{u}, \mathbf{c}, q_y} \quad & -\mathbf{f}_d^T \mathbf{u} + \sum_{i=1}^m q_{yi} c_i \\ \text{s. t.} \quad & \mathbf{f}_r^T \mathbf{u} = 1, \\ & c_i \geq |\mathbf{b}_i^T \mathbf{u}| \quad (i = 1, \dots, m). \end{aligned}$$

- $\tilde{q}_{yi} = \begin{cases} \tilde{q}_{yi} & \text{部材 } i \text{ が存在} \\ 0 & \text{部材 } i \text{ が消失} \end{cases}$
- 次の MIP に等価

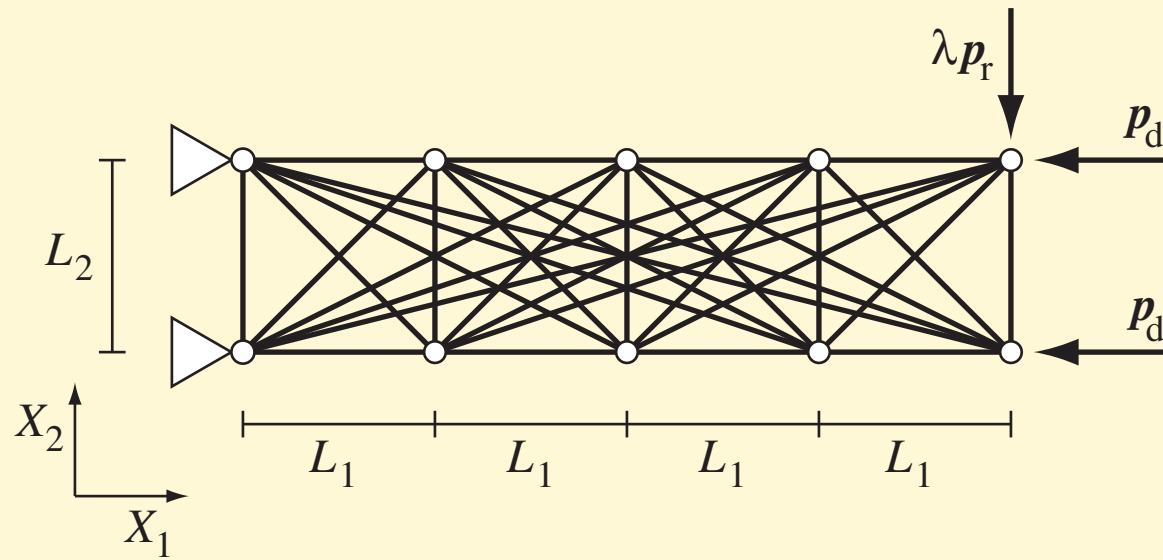
混合整数計画としての定式化

- 最悪シナリオを求める問題：

$$\begin{aligned} \min_{t, \mathbf{u}, \mathbf{c}, \mathbf{w}} \quad & -\mathbf{f}_d^T \mathbf{u} + \sum_{i=1}^m w_i \\ \text{s. t.} \quad & \mathbf{f}_r^T \mathbf{u} = 1, \\ & c_i \geq |\mathbf{b}_i^T \mathbf{u}|, \\ & -M(1 - t_i) \leq w_i - \tilde{q}_{yi} c_i \leq M(1 - t_i), \\ & -Mt_i \leq w_i \leq Mt_i, \\ & t \leq \tilde{t}, \quad \sum_{i=1}^m (\tilde{t}_i - t_i) \leq \alpha, \\ & t_i \in \{0, 1\}. \end{aligned}$$

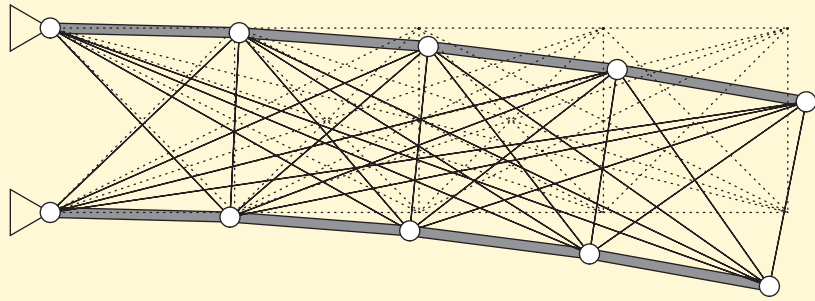
- $M > 0$: 十分大きな定数
- 整数制約 以外はすべて線形制約

ex.) 32 部材 平面トラス



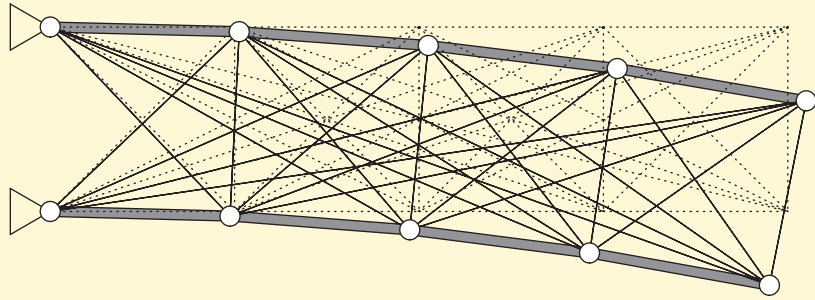
- $f_{rj} = 1.0$ $f_{dj} = 5.0$

ex.) 32 部材 平面トラス

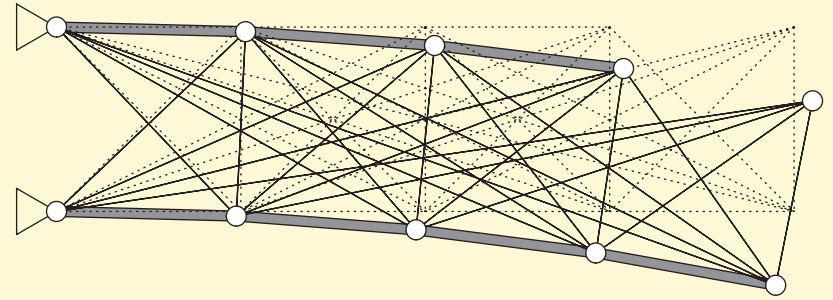


$$\lambda(\tilde{\mathbf{t}}) = 10.00$$

ex.) 32 部材 平面トラス

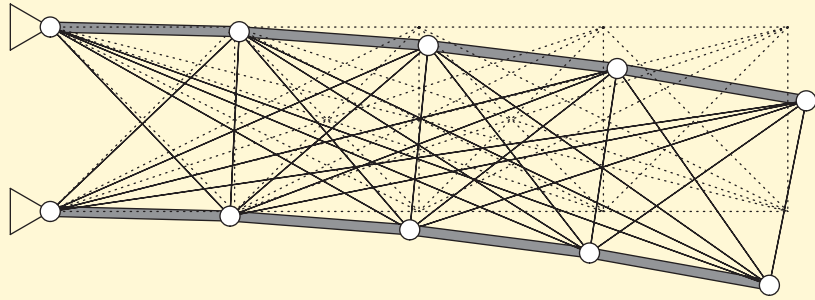


$$\lambda(\tilde{\mathbf{t}}) = 10.00$$

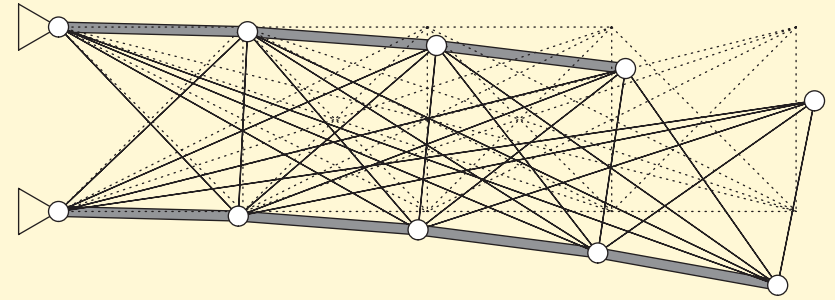


$$\alpha = 1, \lambda(\mathbf{t}^{\text{worst}}) = 8.750$$

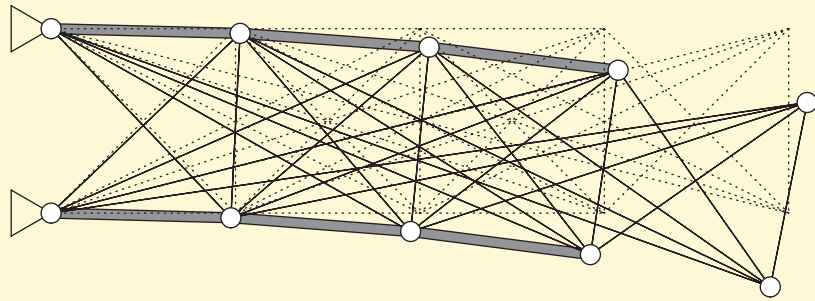
ex.) 32 部材 平面トラス



$$\lambda(\tilde{t}) = 10.00$$

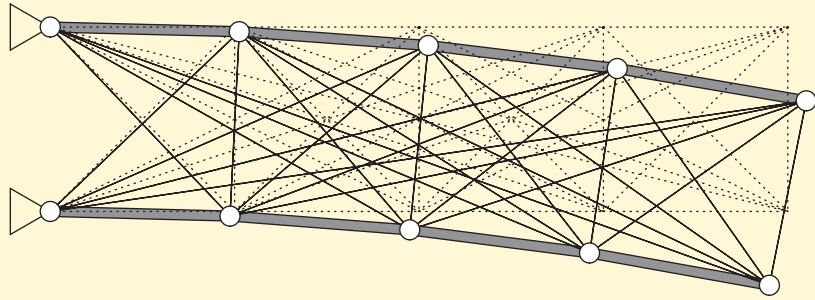


$$\alpha = 1, \lambda(t^{\text{worst}}) = 8.750$$

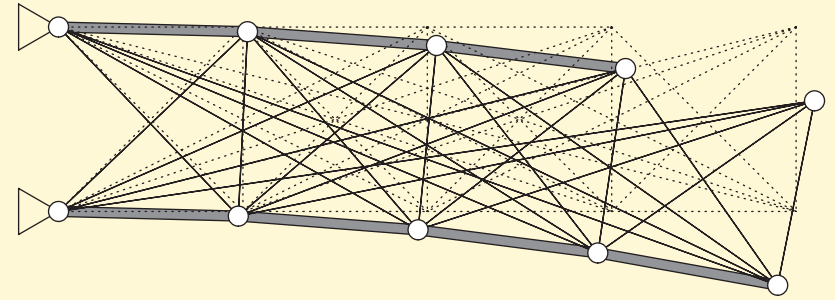


$$\alpha = 2, \lambda(t^{\text{worst}}) = 7.500$$

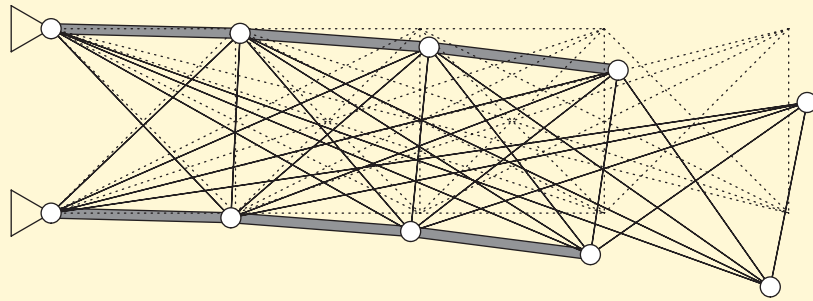
ex.) 32 部材 平面トラス



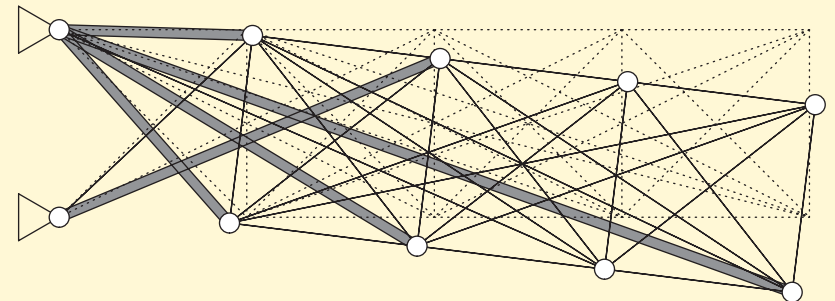
$$\lambda(\tilde{\mathbf{t}}) = 10.00$$



$$\alpha = 1, \lambda(\mathbf{t}^{\text{worst}}) = 8.750$$

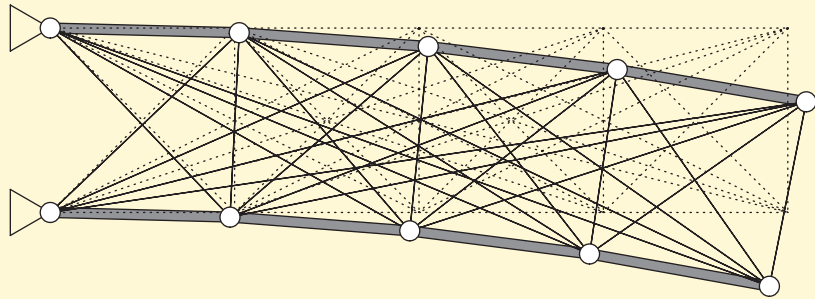


$$\alpha = 2, \lambda(\mathbf{t}^{\text{worst}}) = 7.500$$

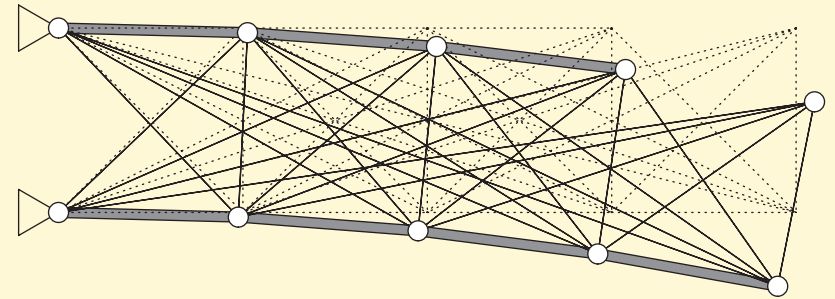


$$\alpha = 3, \lambda(\mathbf{t}^{\text{worst}}) = 6.072$$

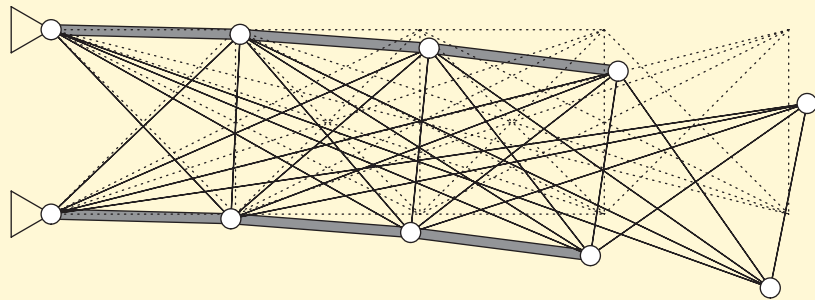
ex.) 32 部材 平面トラス



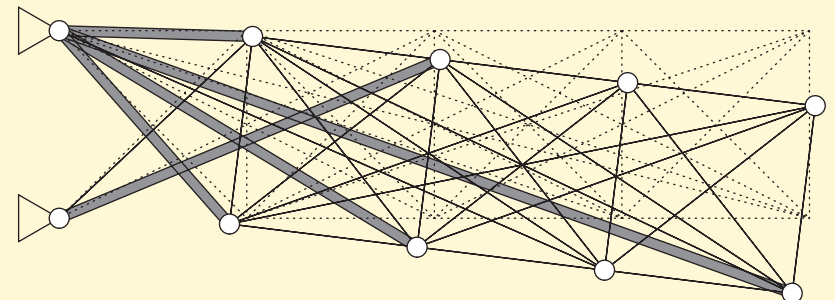
$$\lambda(\tilde{\mathbf{t}}) = 10.00$$



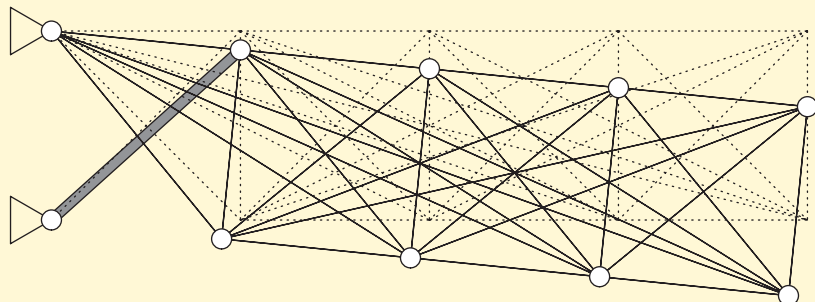
$$\alpha = 1, \lambda(\mathbf{t}^{\text{worst}}) = 8.750$$



$$\alpha = 2, \lambda(\mathbf{t}^{\text{worst}}) = 7.500$$

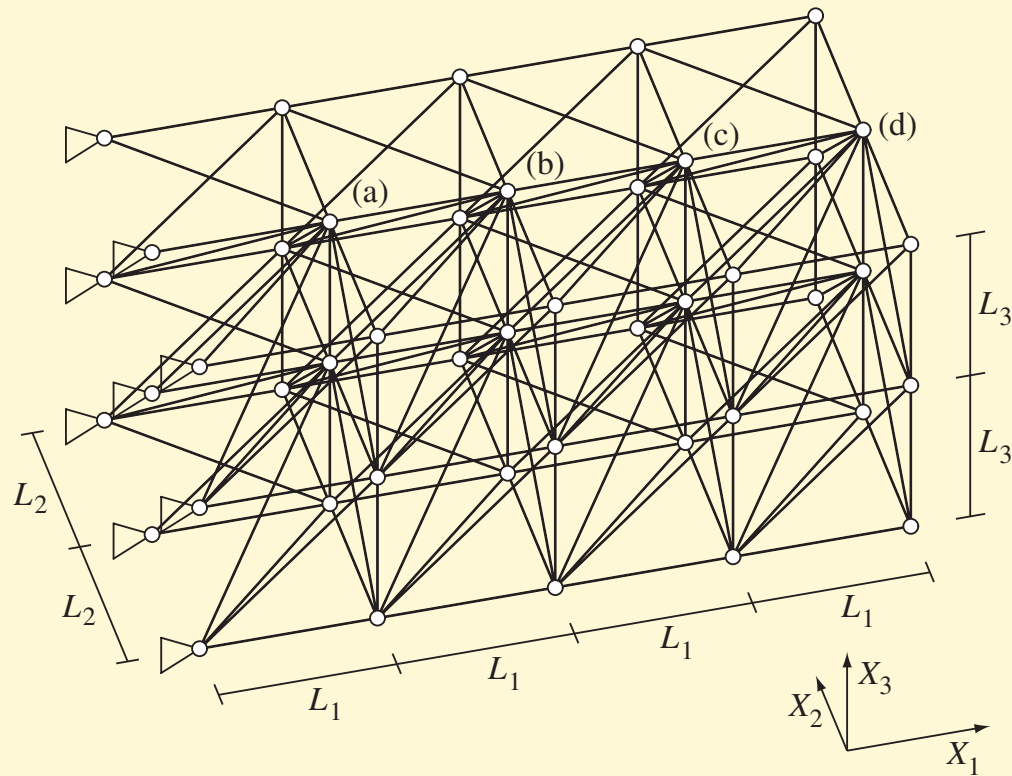


$$\alpha = 3, \lambda(\mathbf{t}^{\text{worst}}) = 6.072$$



$$\leftarrow \alpha = 4, \lambda(\mathbf{t}^{\text{worst}}) = 2.286$$
$$\binom{32}{4} = 35960 \text{ 通り}$$

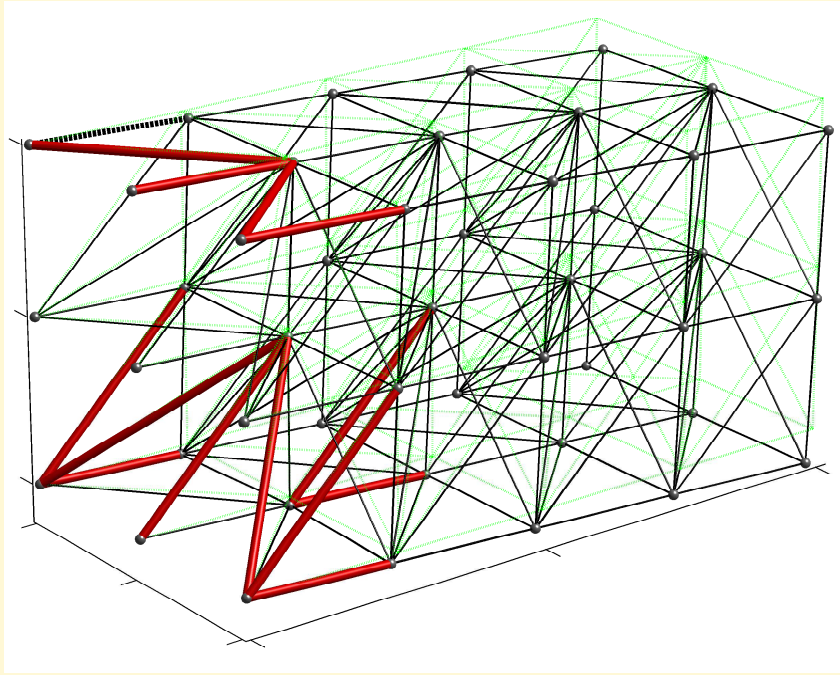
ex.) 立体トラス



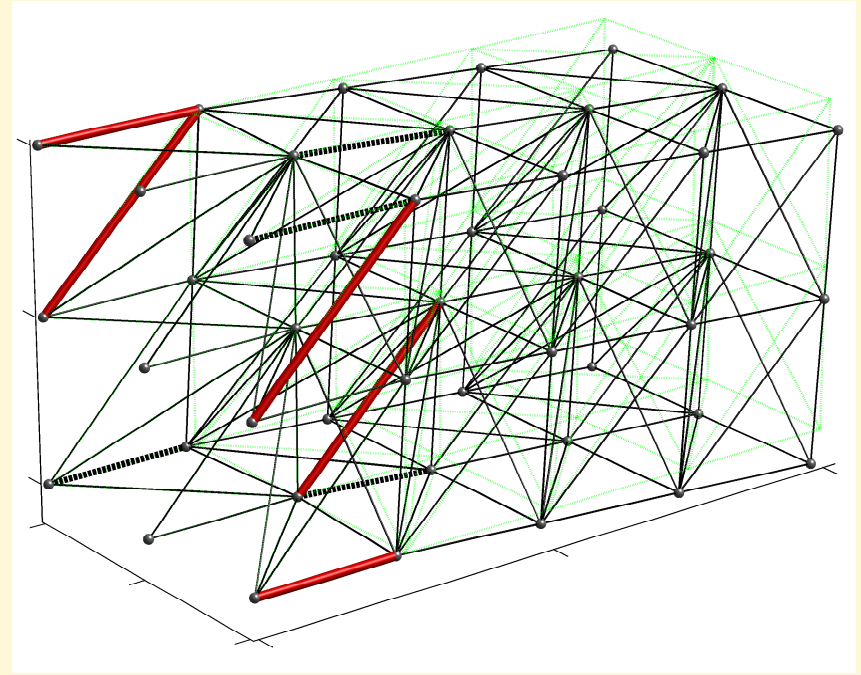
$$\lambda(\tilde{t}) = 140.71$$

- f_{rj} : 節点 (a)–(d) $f_d = 0$

ex.) 立体トラス



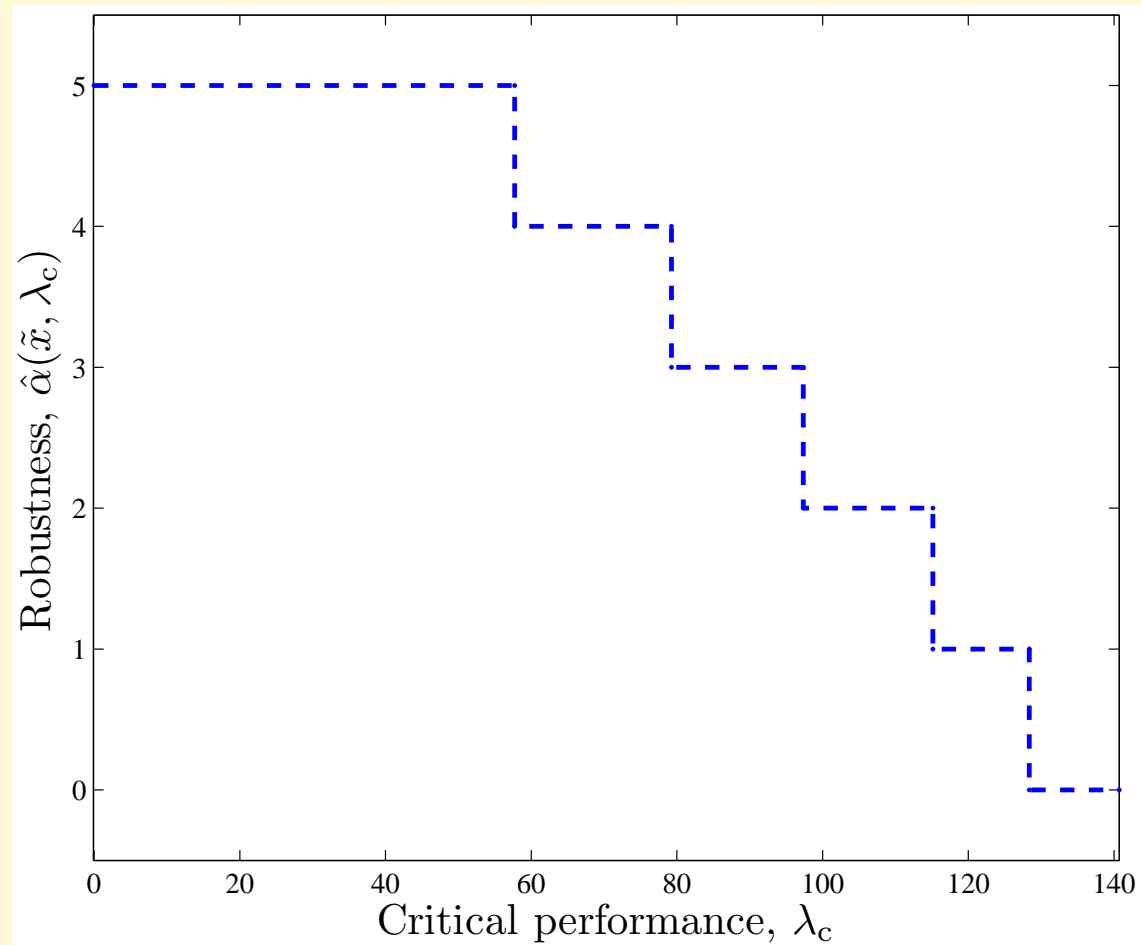
$$\alpha = 1, \lambda(\mathbf{t}^{\text{worst}}) = 128.36$$



$$\alpha = 4, \lambda(\mathbf{t}^{\text{worst}}) = 79.26$$

ex.) 立体トラス

- 冗長性と要求性能のトレードオフ



まとめ

- 構造物のロバスト最適化
 - 確率論的なモデル → 信頼性設計
 - 非確率論的なモデル—統計的な情報が十分に得られない場合
- 非確率論的なロバスト最適化
 - ロバスト制約：最悪のシナリオで制約を満たす
 - トポロジーの最適化 → 不確定性が設計に依存
 - 半正定値計画 や 整数計画 の活用
 - 最悪シナリオを求める問題 ← 大域的最適性が重要